創立七十周年記念誌

北海道別海高等学校

校歌

作詞　深谷　豊彦
作曲　久保田　吉秋

一、春悠々の雲流れ
風雪ここに輝きて
試練の文化花ひらく
ああ朔北に先駆する
誉れも高き別海高

二、旭日つねに新たなる
緑の丘に集い来て
光とあふぐ理想あり
ああ溌剌の未来見よ
希望に燃え立つ別海高

三、紅葉色映え水清き
流れの岸に育くくみし
若き瞳に叡智澄む
ああ清新に人美しく
永久に光栄あれ別海高

新是日日
校訓

北海道別海高等学校

教育目標

一、自ら学ぶ人（英知）

二、互いに助け合う人（誠意）

三、たくましく生きる人（実践）

佐　藤　一　昭　学校長

目　次

発刊によせて

～厳しい時代を乗り越えて、明るい未来の創造へ～　北海道別海高等学校同窓会会長　大槻祐二……10

発刊にあたって　北海道別海高等学校長　佐藤一昭……11

創立70周年のお祝い　北海道別海高等学校ＰＴＡ会長　竹中利哉……13

祝　辞

別海高等学校創立七十周年記念によせて　別海町長　曽根興三……16

北海道別海高等学校70周年記念誌発刊に寄せて　北海道教育庁根室教育局長　日向正明……17

七十周年を祝して　別海町教育委員会　教育長　登藤和哉……18

創立七十周年に寄せて　北海道別海高等学校十八代校長　広海拓……19

地域と共にある学校づくり　～地域の子供は、地域で育てる～　北海道別海高等学校十九代校長　岸田隆志……20

永久に光栄あれ別海高　北海道別海高等学校二十代校長　杉田良二……21

北海道別海高等学校創立七十周年によせて　北海道別海高等学校二十一代校長　髙橋尚紀……22

創立七十周年を祝して　～記念誌の発刊に寄せて～　北海道別海高等学校二十二代校長　古川栄一……23

別海高校での勤務を振り返って　北海道別海高等学校二十三代校長　大関俊郎……24

沿革小史　平成22年～令和元年のあゆみ（全日制課程普通科・酪農経営科）……26

回想・思い出（全日制課程普通科・酪農経営科）
旧職員……48
同窓生……55

役員名簿
北海道別海高等学校七十周年記念事業協賛会役員……64

編集後記……66

北海道別海高等学校

発刊によせて

～ 厳しい時代を乗り越えて、明るい未来の創造へ ～

北海道別海高等学校同窓会会長　大　槻　祐　二

令和元年12月に突如として現れ、今日まで猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症が蔓延している中別海高校は70周年を迎え、本来であれば令和2年度において70周年の記念事業を寺井前同窓会長のもとで執り行う予定でしたが、2年遅れとなり、私がその任を託されることとなりました。

まず最初に、少子化が続く中現在に至るまで高校運営のため、別海町をはじめとする関係機関、教職員の皆さん、ＰＴＡ関係者、住民の皆様のご支援に対して感謝とお礼を申し上げます。

私は昭和51年に普通科1期生として入学し、普通科として上級生がいない中でも、酪農科の先輩や酪農科、普通科の先生方にやさしく指導いただき、青春を謳歌し、今振り返ってみても高校時代が充実していたと思っています。

しかし、昨今の生徒たちは感染症により多くの行動が制限され、青春を謳歌できないでおり、悔しい思いをしていることと思います。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、戦争、紛争がある、将来に明るさが見通せない時代だからこそ、地域コミュニティを大切にして、人と人との関わりを重視することが大事だと考えます。

そして生徒たちには、人口減少、感染症、紛争社会といった混沌とした時代を乗り越える、たくましい人間性と創意工夫をしながら生き抜く力を身につけてほしいと願っています。

併せて「地域愛」、「別海愛」を持った人間へと育ってほしいものです。

近年多くの高校が統廃合となっていっているとき、何とか高校を将来にわたり存続させることが私たち卒業生の責務だと思っています。

卒業生は６９００人以上となり同窓会は大きな組織となっていますので、このパワーを活用し同窓生同士が繋がり、高校を盛り立てていく活動を実践し、「魅力ある別海高校」となるため尽力して参ります。

最後になりますが、生徒たちにとって別海高校が豊かな人間形成の場となり、明るい未来があることを心から祈念し、70周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

発刊にあたって

北海道別海高等学校学校長　佐藤　一昭

地域の皆様の情熱や愛情に支えられながら輝かしい伝統を刻み続けてきた本校は、この度、創立七十周年という大きな節目を迎えました。

顧みますと、本校は、昭和二十五年四月、村民の悲願であった高等学校が、北海道中標津高等学校西別分校（（夜間）定時制課程普通科一間口）として創立され、昭和二十七年十一月、北海道西別高等学校として独立しました。昭和三十九年四月には、基幹産業である酪農の近代的経営に即応する自営者を養成するため、（昼間季節）定時制課程酪農科に学科転換し、昭和四十二年四月には、生活科を新設、校名を北海道酪農高等学校と改称、昭和四十六年四月に町政が施行されると、翌年、四十七年一月には、高校卒業後、就農しながら更なる専門的な知識と高度な技術を学ぶことができる農業特別専攻科（酪農経営コース）が設置されました。昭和五十年十二月には、多様化する生徒の進路希望に対応するため全日制課程普通科二間口が新設され（生活科募集停止）、北海道別海高等学校と改称、昭和五十三年四月に、道立移管されました。その後、昭和五十六年四月に、普通科が一間口増となり、平成十九年には、定時制課程酪農科が全日制課程酪農経営科に再編されるなど、時代の要請に応える中で、幾多の変遷を経て今日に至っております。

純朴かつ思いやり溢れる生徒が集う本校にあって、「英知」「誠意」「実践」の教育目標のもと、文武両道に全力を傾ける生徒の気質は、時代を超えて受け継がれ、六千九百名を超える同窓生が、町内外を問わず、様々な分野で大いに活躍されております。

これまで、本校の教育活動の発展・充実と学習環境の改善・整備に努めてこられた歴代の校長をはじめ教職員の方々、そして、温かい御指導や御支援をいただいた保護者、同窓会、農業クラブＯＢ会、酪農後継者を育てる会、別海高等学校教育振興会、関係企業・団体等の皆様に対し、甚深なる感謝を申し上げます。

さて、今日の人口減少や少子高齢化の進行、ＩＣＴやグローバル化の進展、さらには、新型コロナウイルス感染症の拡大など、予測困難な時代にあって、社会の変化に対応し生き抜くために必要な資質・能力をもった前途有為な人材を育成するためには、これまで以上に、学校と地域が連携を密にして、教育内容の充実を図る必要があります。

こうした中、本校は、平成十九年度から文部科学省や北海道教育委員会の指定を受け、いち早くコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の調査・研究に取り組み、ＰＴＡや地域住民、学識経験者等からなる「みんなで拓く学校づくり運営協議会」を設立し、学習・進路・生活・健康・農業を中心に、積極的に地域の人材や教育資源を活用した教育活動を展開してまいりました。

こうした取り組みの成果が認められ、平成二十四年五月、道立高校では初となるコミュニティ・スクールに指定されると、その活動も益々活発化し、

これまでの取り組みに加え、「バス通学費や部活動遠征費の補助、大学視察や高校生検診（ミニ人間ドック）の実施、民間寄宿舎の運営費補助等」のほか、最近では、「令和四年度入学生全員に対するタブレット端末購入費補助等」、精力的に町への支援要請を行っていただいた結果、年々、町からの支援体制も充実してきております。

まさに、「地域の子どもたちは地域が育てていく」といった教育理念が、町全体に根付いており、地域の皆様の献身的な働きかけにより、生徒たちは、とても恵まれた学習環境の中で青春を謳歌し、学力の向上はもとより、部活動や農業クラブでの全道・全国大会への出場、大学進学や企業への就職など、多くの生徒が自己実現を果すことができていることを大変喜ばしく思い、関係の皆様に衷心よりお礼申し上げます。

歴史の大きな節目を迎えた別海高校は、更なる躍進を目指し、地域創生の中核となって、学校と地域が共に学び合える教育実践を行っているところです。今後とも、教職員と地域が一丸となって、「生徒の夢を実現させ、未来を切り拓く」ための教育活動の工夫・改善に全力で取り組んでまいりますので、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、私事で恐縮ですが、昭和五十八年から三年間、全日制課程普通科八期生として本校で高校生活を過ごし、縁あって、平成十年から十四年間、教員として教壇に立ち、今こうして記念誌の御挨拶を書く機会をいただけましたことは、とても光栄であり、誇りに思っております。

本記念誌の編纂に当たり、何かと御多用のところ、多くの玉稿をお寄せいただきました皆様に、厚くお礼申し上げますとともに、編纂に向け献身的なお力添えをいただきました記念誌編集委員の皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。

創立70周年のお祝い

北海道別海高等学校ＰＴＡ会長　竹中利哉

北海道別海高等学校がここに創立70周年を迎えられたことに対し、保護者を代表しお祝いを申し上げます。これまで別海高等学校に関わってくださった学校関係者のみなさん、そして現在の別海高等学校の礎を築いてくださった卒業生のみなさんに改めて敬意を表します。

聞くところによりますと、別海高等学校は、昭和25年４月に定時制夜間普通科の北海道中標津高等学校西別分校として誕生し、昭和・平成・令和の３つの時代を経て、現在の形となったとのことです。「70年」と一言で言ってしまうのは簡単ですが、この間、町立から北海道立への移管、定時制酪農科から全日制酪農経営科への移行と、学校を取り巻く環境もそれぞれの時代に合わせて変わってきたと聞いています。

令和の時代に入ってからは、これまでの歴史では予想もできなかった、長期間にわたっての新型コロナウイルス感染症への対策は、学校関係者だけではなく、生徒にとっても記憶に残る出来事となったのではないでしょうか。

さて、別海高等学校のホームページのトップには、「地域と歩む私の学校（ステージ）」という言葉が掲げられています。これまでの卒業生が地域を支え、現在の生徒たちは地域に支えられ、別海高等学校は地域に根差した学校として存在している、まさにそのような状態を表している言葉だと感じます。

これまでの部活動などの輝かしい記録と記憶に関しては、生徒自身の努力の積み重ねはもちろんではありますが、それを支えていただいた学校関係者の協力と、地域のみなさんのご理解の賜物だと考えます。

生徒を取り巻く環境も、近年向上していると感じています。遠方から別海高等学校で学びたいと願う生徒に向けた寄宿舎の整備や、面積が広い町であるが故の通学バスの助成や、部活動バスの運行などがあります。これらの施策に関しては、これまでの別海高等学校卒業生や、学校関係者のみなさんの「地元の高校で学んでほしい」との声が実を結んだものだと思います。私たちＰＴＡ関係者のこれからの役割は、これらの制度維持を図ることと、充実した施策の外へのアピールではないかと考えています。

今、学校経営・学校配置は、少子高齢化が大きく影響しています。子供たちの数が、学級数の減、新入生の募集停止、学校統廃合など、地域の核となってきた学校の存在自体を左右する状況になっています。

生徒たちには「自らが自らの手で生きる力」が求められており、民法が改正され、在学中に「成人」としての権利と責任が与えられるようになりました。私たちＰＴＡは学校、そして地域と一体となり、今の時代に対応できるような生徒の成長を手助けできるよう、「今できる形で」協力していかなくてはならないと考えています。

結びとなりますが、別海町のみならず、各地で活躍されている６９００名の卒業生を送り出した北海道別海高等学校が、これからもますます飛躍することを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

若き瞳に叡智澄む　ああ清新に人（生徒）美しく　永久に光栄あれ　別海高

祝　辞

別海高等学校創立七十周年記念によせて

別海町長　曽　根　興　三

別海高等学校が創立七十周年を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます。

貴校の歩みは、昭和二十五年に北海道中標津高等学校西別分校として開校し、昭和二十七年に北海道西別高等学校として独立しました。その後、昭和三十九年に昼間季節制酪農科へ学科転換し、昭和五十一年の全日制課程普通科設置に併せ、現在の校名として、昭和五十三年に道立へ移管いたしました。さらに、平成十九年には、全日制課程酪農経営科を開設するなど、幾多の変遷を重ね、七十年の歴史を刻み今日に至っております。

別海高等学校においては、校訓「日日是新」を掲げ、地域の発展を目指し、郷土の将来を担うにふさわしい前途有為な人間の育成を目標とし、教育活動に努めてこられ、この間に卒業された方々は六千九百有余名にのぼり、地元別海町はもとより、道内外における様々な分野で活躍されておりますことは誠に喜ばしい限りであります。

これまで全日制課程普通科と酪農経営科の教育活動が、それぞれの特色を活かし、伝統ある別海高等学校の地位を築きあげてこられたのも、歴代校長をはじめ、教職員の方々の御尽力と生徒の皆さんの努力、ＰＴＡや同窓会、さらには地域の方々の温かい御支援御協力の賜物であります。

本町は、明治十二年の開基、大正十二年の別海村の誕生を経て、昭和四十六年に町制を施行し、令和三年で町制施行五十周年を迎えました。この間の別海高等学校の教育活動による地域人材の育成は、別海町の発展に欠かすことのできないものであり、多大な貢献をいただいていることに感謝申し上げます。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、様々な行動の制限や行事の自粛など不本意な学校生活を強いられる中、学校経営や生徒の指導にあたられている校長をはじめとする教職員、ご支援をいただいている保護者、地域の皆様に敬意と感謝の意を表す次第であります。

本町では、世代や地域を超えた強い結び付き、豊かな自然環境を活用した産業が基軸となった発展、誰もが安全・安心で住みやすい町を実現するため、平成三十一年度から十年間のまちづくりの指針である「第七次別海町総合計画」を策定し、町行政を推進しておりますが、離農や高齢化による農業の担い手の減少、少子化、水産資源の減少、自然災害の増加、地域情報化への対応、脱炭素社会の実現など、数多くの課題に直面しております。

変化の激しい社会の中において、これらの課題を解決し、町を持続的に発展させるためには、地域人材の活躍が最も必要となることから、今後も、町の将来を担う人材の育成にご協力をよろしくお願いいたします。

また、本町では、令和三年に町制施行五十周年を迎え、今年度は町民の文化活動の新たな拠点となる生涯学習センター「みなくる」が完成し、町制施行五十周年記念式典、同センター落成記念式典に併せて友好都市サミットを開催いたします。この式典を契機に、町民全体で町への愛着を深めるとともに、町の魅力を町内外に発信させてまいりますので、併せてご協力をお願いいたします。

現代社会においては、グローバル化や情報化の進展など、急速な社会の変化に対応できる柔軟性が必要とされ、今日では、生徒の関心・進路希望の多様化、中学校卒業者数の減少などへの対応も高等学校には求められております。

社会の変化や生徒の多様なニーズなどに対応するためには、特色ある高校づくりが重要でありますが、別海高等学校においては、地域と連携した魅力ある学校づくりが進められていると思います。

今後も「地域とともにある学校」として、学校・家庭・地域で連携した中で、生徒一人ひとりの可能性を広げ、個々の自主性を高める教育活動を推進していただき、広い視野をもって社会に貢献できる人材が育っていくことを心から望んでおります。

最後に、記念すべき創立七十周年を迎え、別海高等学校ならびに地域の皆様の益々のご活躍を心よりご祈念申し上げお祝いのことばと致します。

北海道別海高等学校70周年記念誌発刊に寄せて

北海道教育庁根室教育局長　日向正明

北海道別海高等学校が、このたび、創立70周年の節目を迎えられ、『創立70周年記念誌』を刊行されますことに、心からお祝い申し上げます。

顧みますと本校は、昭和25年に定時制課程普通科を有する北海道中標津高等学校西別分校として開校され、昭和27年には北海道西別高等学校として独立いたしました。その後、昭和39年に昼間季節制酪農科へ学科転換し、昭和51年の全日制課程普通科設置に併せ、現在の校名である北海道別海高等学校と改称し、昭和53年には道立へ移管しました。さらに平成19年には、定時制課程酪農科を募集停止し、全日制課程酪農経営科を開設するなど幾多の変遷を経て今日に至っております。

この間、６９００名を超える卒業生が本校を巣立ち、未来を担う有為な人材として、道内外における様々な地域で活躍されておりますことは、誠に喜ばしい限りであります。

本校は、校訓「日々是新」のもと、学校教育目標として「地域の発展を目指し、郷土の将来を担うにふさわしい前途有為な人間を育成する」を掲げ、「向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒の育成」「郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成」「地域と連携・協働し、地域の教育資源を活用した教育活動等を通じて、望ましい勤労観・職業観・豊かな人間性、健康的な生活習慣を身に付け、別海町の未来創造に貢献できる生徒の育成」、の３つのスクール・ミッションに基づき創意工夫あふれる教育活動に努めてこられました。

特に、平成24年には道立高等学校としては初めてとなるコミュニティ・スクール「みんなで拓く学校づくり運営協議会」を導入し、地域の子どもは地域で育てていくとの思いのもと、保護者や地域住民等が、直接、学校運営に参画することで、生徒一人ひとりの学力向上や進路実現等について地域と連携を深め、教育活動の充実を図り、町の将来を支える人材の育成を地域ぐるみで推進しており、「地域合同防災避難訓練」等の特色ある取り組みは大きな成果を上げています。

また教育課程においては、「総合的な探究の時間」に「地域探究」を取り入れることにより、地域の課題解決に向けて自ら考え行動し挑戦し続ける姿勢や、責任を持って社会変革を実現しようとする態度等の育成に取り組むとともに、学力の向上と豊かな人間性の涵養を目的にした本校独自の取り組みであるＢＳＡＧ（別海・スペシャル・アドバンスト・グループ）を通じて授業の質の向上や質の高い学びの実現を図るなど、地域の厚い信頼を得るとともに各方面から高い評価を得ております。

さらに、平成28年度には、「教育課程研究指定校」として芸術（音楽科）における思考力・判断力・表現力等を育成する主体的・創造的な「鑑賞」の指導方法と評価の研究に取り組むとともに「中高生を中心とした生活習慣マネジメント・サポート事業」の協力校として望ましい生活習慣を定着させるための研究に取り組むなど、積極的に授業改善や生徒指導の充実を推進しております。

本校が、このような輝かしい伝統を築き、今日まで発展を遂げてこられましたのは、歴代の校長や教職員の皆さんの御尽力はもとより、生徒の皆さんの御努力、ＰＴＡや同窓会、地域の皆様方の温かい御支援、御協力の賜物であり、ここに深甚なる敬意と謝意を表するものであります。

結びになりますが、本校の教育の振興にひとかたならぬ御尽力をいただきました関係の皆様方に、深く感謝を申し上げますとともに、本校のますますの御発展を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

七十周年を祝して

別海町教育委員会　教育長　登藤和哉

別海高等学校が、ここに創立七十周年の記念すべき年を迎えられましたことを、別海町教育委員会として心よりお喜び申し上げます。

別海高等学校は開校以来、教育に対する地域住民の熱意と期待に応え、校訓「日日是新」のもとに、地域に根差した教育を推進し、これまで多くの有為な人材を輩出しており、卒業生が地元をはじめ全道や全国の各界で幅広く活躍されていることは、誠に喜ばしい限りであります。

これもひとえに、熱心に御指導された歴代の校長先生をはじめ、教職員の方々の御努力と日々の精進を重ねられた生徒の皆様の不断の努力によるものと考えています。また、保護者や地域住民の方々が別海高等学校の発展に誠心なる御理解と御支援をいただきましたこと、ここに深く敬意と感謝の意を表するものであります。

さて、文部科学省では、これから子供たちが生きていく時代を「変化が激しく予測困難な社会」と位置づけています。社会が急激に変化する中で、様々な課題に直面していることは言うまでもなく、教育も大きな転換期を迎え、新たな対応が求められています。

そのような中で、主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実に努めることは、極めて重要であると考えています。

現在、別海高等学校におかれましては、目指す生徒像として、「基礎力の習得」や「多様な価値観の理解と協力」及び「挑戦」を掲げ、自ら学び、自ら考える力の育成を求めています。また、英知、誠意、実践を教育目標とし、その具現化に努めながら地域とともに歩む学校づくりを目指されており、まさに、新しい時代に向けて本町の将来を創生する力となることを推進しているといえます。

さらに、地域の期待に応えるべく、全日制普通科、酪農経営科及び農業特別専攻科の教育活動が、それぞれの特色を十二分に発揮し、信頼を得ていることは誠に頼もしい限りであります。

さらに加えて、別海高等学校のスクールミッションには「郷土を愛する」ことが掲げられていますが、別海高等学校の生徒はどこで会っても気軽に挨拶を励行し、逆に私自身が戸惑ったことがあるほどです。これは郷土愛が深くなければできないことで、一朝一夕でできるものではなく、伝統が作り上げたものであると実感しています。

開校以来七十年、この広大な別海の大地にふさわしく、ここに新たな心で将来を展望し、別海町開拓精神を受け継いで地域の発展や将来に向かってはばたく担い手として、生徒の皆様にはさらなる精進をされるよう期待をしております。

昭和、平成、令和と三時代を歩んできた別海高等学校が本年七十周年を迎えて、どうか今後とも、開校以来地域と一体となった教育をより一層進められますとともに、「夢を実現」「未来を切り拓く」有為な人材の育成に努められますことを心から御期待申し上げます。

おわりに、別海高等学校の益々の御発展と各位の御多幸をお祈り申し上げ、祝辞とさせていただきます。

創立七十周年に寄せて

北海道別海高等学校十八代校長　広　海　拓

私が赴任して三年目に創立六十周年記念事業を実施したことがつい先日のように思い出されます。あれから十年、別海高校が創立七十周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

別海高校は、昭和二十五年の創立から昭和五十三年の道立移管まで町立高校であったこともあり、地域に根ざした学校として町民や地域住民から大きな期待が寄せられています。平成十七年にテレビ放送されたドキュメンタリー番組「桜の花の咲く頃に」で学校が話題になりました。地元で懸命に生きる高校生たちの卒業までの日々を描いていましたが、当時、私は率直な生徒、先生方の生徒を思う実直さがとても心に響いてきて見終わってもしばらく余韻に浸っていたと記憶しています。私は、図らずもまもなく創立六十周年及び定時制酪農科閉科を控えている、そして新しいタイプの学校づくりに取り組んでいる学校に迎えられました。全日制普通科、定時制酪農科、農業特別専攻科の併置校でしたが、平成十九年に昼間季節定時制の見直しにより、定時制酪農科が募集停止となり全日制酪農経営科に再編され、酪農後継者育成を含めた「地域ぐるみの教育」をめざす学校として再出発しました。私の在職時に四十四年続いた定時制酪農科が閉科し（平成二十一年三月）、平成二十一年度には全日制完成年度を迎え、酪農経営科から最初の卒業生を送り出しました。教育方針としては、各学科の特色を生かした創意ある教育活動を展開しながら、生徒一人ひとりの多様な進路実現を目指しています。普通科では多様な進路希望を実現するため、教育課程の工夫（五コースを設置し、多様な選択科目の導入）や習熟度別授業、進学者講習等を実施し、成果を上げています。さらにシラバスの活用、公開授業・研究授業の実施、評価基準と観点別評価の工夫改善、生徒による授業評価（全教科）の実施により、「わかる授業」の展開に努め、教科指導の更なる改善・充実を図っています。酪農経営科では、地域の酪農施設や人材を活用した実習教育を展開し、学校農場での実験実習は農場をはじめ乳加工室、動物バイオ学習及び畜産実験設備等が整備され、地域関係機関と連携した先進的な実学教育を展開しています。農業特別専攻科では、科訓「酪理実践」のもと、地域関係機関との連携で経営の理論と実践を学び、地域酪農を担う経営者を養成しています。

さて、別海高校は平成二十四年度から地域住民が学校運営に参画するコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を導入し、特色ある教育活動を行っています。平成十九年度から道内の学校として初めて『コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進事業』（文科省二年・道教委二年）の指定を受け、推進委員をはじめ地域住民の協力によりコミュニティ・スクールの調査研究を行い、大きな成果を上げました。平成二十二年度には『みんなで拓く学校づくり運営協議会』（保護者や地域住民が学校運営に参加することができる）を設置し、定例会（年四回）、五つの部会を開催しました。新しい教育活動や学校課題の解決に向けた方策等を協議しながら、学校・保護者・地域が一体となった取組を進めました。この取組によって学校への協力・支援が得られ、結果として教育効果が上がり信頼される学校づくりに結びつき、さらに地域の活性化に寄与すると確信できました。別海高校の「コミュニティ・スクール」のスタイルは、地域住民が高校の応援団となって「地域の子どもは地域で育てていく」ことです。そのスタイルは、将来地域を支える人材の育成につながり、地域の繁栄につながると思います。この取組が道議会で注目される中、道教委は成果と課題を踏まえ、今後、コミュニティ・スクールのモデル的導入に向けて検討を進めました。しかし、国はコミュニティ・スクールのこれまでの成果と今後の在り方について検討しており、特に「新しい公共」型学校創造に向けて取り組む動きがあり、道教委は国の動向を見ながら進めたいという考えから、結果として導入が遅れる原因になりました。次年も引き続き、道教委と連携しながら、学校独自に進めることになりました。

この三年間、課題を改善できなかったことが多々ありましたが、温かいご支援を賜りました別海町をはじめ関係団体、学校支援組織、同窓会、ＰＴＡ等そして教職員の皆様に衷心より感謝申し上げます。学校を取り巻く環境は、生徒減少等、厳しい状況が続きますが、創立七十周年を契機として、地域との連携を深めながら「地域ぐるみの教育」と「地域を支える人材育成」推進して、今後ますます充実発展されますよう心からご祈念申し上げます。

地域と共にある学校づくり　～地域の子供は、地域で育てる～

北海道別海高等学校十九代校長　岸　田　隆　志

幾多の変遷を経て、七十周年を迎えられましたこと、本当におめでとうございます。「西別」の名前から現在「別海」の名前が通常になっているかと思います。約半世紀前に普通科が設置され、その後鉄道も廃止。駅舎も亡くなり、小学校や中学校も移転し、今の町並みが形成されたと思います。別海をなんと呼ぶか。「べっかいこうこう」、「べつかいちょう」と使い分けていたことを懐かしく思い出します。呼び名については、故水沼町長がどちらでもいいとの結論を出したと調べたことを記憶しています。私にとっては、「べっかいこうこう」です。

二〇一一年（平成二三）年から二〇一二（平成二四）年の二年間の勤務でした。沢山の思い出があるのですが、「地域の子供は、地域が育てる。」という考えのもと小中の校長会に無理を言って参加させていただきました。中学校訪問をはじめ、幼稚園事業・様々な地域イベントに積極的に参加しました。その中で述べておきたいことは、専攻科の存続と発展。「地域と共にある学校づくり推進協議会」です。

専攻科については、新農業人フェアに参加するなど学生募集に努めました。当時、関東周辺や関西方面の農業高校には知り合いの校長が沢山いて、道外からの入学者を対象に考えてみました。関東・関西での新農業人フェアへの参加や高校訪問など検討しましたが、実現には至りませんでした。専攻科の海外研修も魅力の一つでした。ニュージーランドへの研修学生とも面談し、ステイ先に葉書を送ったりもしました。就農に関わる専攻科の役割と新規就農に関する町営牧場の役割を広く全国へ宣伝する必要がありました。

コミュニティスクールについては、順調に引き継ぎ、活動していました。赴任二年目も年度当初から順調にスタートしました。しかし、年度途中から道教育委員会主導でのコミュニティスクール＝地域と共にある学校運営推進協議会が認められることになりました。うれしいことではありましたが、一部委員の変更を求められるなど大変苦労しました。平成二四年五月十日、全道校長会のさなか、局からの電話で前日の九日にコミュニティスクールの指定決定があったことを伝えられました。その後、七月三日に委員の委嘱が学校にて行われました。指定を受けたからといって何か変わったことがあったわけではないので、粛々と活動を続けました。この間、苫小牧で開催された全道の普通科校長会においてコミュニティスクールについて研究発表の機会をいただきました。広く北海道の高校でのコミュニティスクールを発展させる基礎的な場をいただきました。この後、北海道内でも「地域と共にある学校づくり推進協議会」が設立され始めました。別海高校が北海道最初の認可でした。

委員研修として当時のコミュニティスクール会長安部政博氏と共に千葉県の多古高等学校・横浜のサイエンスフロンティア高等学校を視察する機会を得ました。東京開催の「地域と共にある学校づくり推進協議会」への参加も兼ねて視察しました。有意義な研修でした。

そんな中、別海高校の案内看板がないとの話が出ました。昔はあったようですが、ＪＡの移転により撤去されたようです。コミュニティスクールで看板が設置できないかと考えました。地域貢献制度で高玉建設が関わってくださり、看板設置場所でＪＡが場所を提供してくれました。生徒から図案を募集し、最終的に図案は複数生徒の統合案で考え、桜をモチーフとした看板を設置することができました。平成二四年十月二十二日看板設置セレモニーを催しました。一年に一度、地域の目に見える楽しいことができるとわかりやすい活動につながると思いました。

沢山の活動がありました。地域の人達のつながりが、地域の人財を育て上げる事への役割を担っていると思います。二年間の勤務ではありましたが、生徒をはじめ保護者の皆様、教職員、地域の方々とのつながりを大切にし、援助いただけたと思っています。今後も地域人材育成の教育の場として発展していくことを願っています。

永久に光栄あれ別海高

北海道別海高等学校二十代校長　杉田良二

伝統と輝かしい歴史を誇る別海高等学校が七十周年の節目を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。本校が広大で豊かな大地「ペッ・カイエ」に開設されて以来、数多の教職員、生徒、保護者、そして町理事者をはじめ地域の方々のご支援により、幾多の変遷を重ねながら「日日是新」の校訓のもと、「地域の発展をめざし、郷土の将来を担う前途有為な人間の育成」を目標に数々の足跡を遺し、今日の揺るぎない地歩を築かれました。

この間、本校を巣立った卒業生は六千九百有余名に上り、母校で培った経験と文武両道の精神を糧として、地元はもとより、道内外のさまざまな分野で幅広く活躍されておられますことは、誠に喜ばしい限りであります。町の未来を担う人づくりに注いでこられました先輩各氏の熱き想いと御労苦に対し、深甚なる感謝と敬意を表するものであります。

私は第二十代の校長として二〇一三（平成二十五）年度から二年間在任しました。着任間もなく校長室に掲げられた歴代校長のご尊顔を拝し、皺に深く刻まれた年輪と威厳に満ちた重厚な風貌に身の引き締まる思いをし、果たして、浅学非才で微力な小生に、先達が大切に繋いでこられた魂のバトンを受け取り、後任に確りと引き継ぐことができるのか、不安の念に苛まれ身震いしたのを覚えています。

私に課せられた使命は、北海道教育委員会による協議会設置の指定から二年目を迎えたコミュニティ・スクール（地域運営学校）を軌道に乗せ、道立学校の標となることでした。当時、北海道ではまだ馴染みが薄かったコミュニティ・スクールも、全国では小・中・高校合わせて一千五百七十校までに拡大しておりました。前年度から三百八十七校増と急速な勢いで広がりを見せていましたが、その殆どが小・中学校で、通学エリアが広範囲な高校では遅々として進まず僅かに九校、道内に至っては唯一本校のみでありました。文部科学省では、三年後の二〇一六年までに全国の公立学校の凡そ一割にあたる三千校にまで拡大することを目標とする肝の入れようで、早速、北海道教育委員会の立川教育長の来校スケジュールが組まれましたが、直前になって中止されたことは誠に残念でありました。

私が抱いた別海町の印象は、町章に力強く象徴されているとおり正しく融和と団結の町でありました。町立の時代に培われたおらが町の高校への愛校心は殊更強く、町や農業関係機関を中心とした支援体制はすでに整っており、コミュニティ・スクールへの理解と協力が得られやすい環境にありました。本校は、農場を持たない農業科の設置された高校ですが、酪農実習をはじめＪＡや自治体など地域と連携した教育活動に取り組んでおり、また、地域の人材を活用した医療関係の仕事を志す生徒のための座談会や生徒の健康づくり研究発表大会、生徒を対象としたミニ人間ドックや健康ランチセミナーなどの健康教育を積極的に進めており、地域全体で教師役を担い、地域を実験実習のフィールドにして体得する実学教育の学び場として「地域の子どもは地域で育てる」を理念とした地域教育力を最大限に活用した取り組みと、道立学校として初めてコミュニティ・スクールに指定され、保護者や地域住民のニーズを迅速に学校運営に反映させた特色ある学校づくりが高い評価を得て、平成二十六年度には根室管内教育実践表彰を受賞しました。「みんなで拓く魅力あふれる学校づくり」の礎となって今日に受け継がれていることを大変嬉しく思います。

「一年の計は田を耕すにあり、十年の計は樹を植えるにあり、百年の計は人をつくるにあり」の格言どおり、教育は町の永続的発展の基であり、未来へ遺すべき財産であります。これからも七十年の歳月をかけて築いた歴史と伝統を引き継ぎ、地域の信頼に応える学校として益々発展されることを祈念します。永久に光栄あれ別海高。

北海道別海高等学校創立七十周年によせて

北海道別海高等学校二十一代校長　髙橋尚紀

北海道別海高等学校が創立七十周年を迎えますことに心よりお祝い申し上げます。また、このことを、生徒の皆さん、保護者・同窓の皆様方、地域の皆様方、歴代教職員の皆様方とともに、お慶び申し上げます。

私は、平成二十七年四月に別海高校に赴任いたしました。初日、校舎内を見学したとき教室・廊下など丁寧に清掃され、生徒が校舎を大切に使っていることに気づきました。また、廊下で生徒とすれ違うとき、多くの生徒が立ち止まって会釈をするなど礼儀正しさに好感を持ちました。この生徒たちの立ち振る舞いは、私が別海高校に在籍した二年間、変わりなく続きました。後に、別海高校を訪れた文部科学省のコミュニティスクールコーディネーターの方が、授業を参観されたとき、生徒の落ち着いた授業態度に感嘆されてました。

このように、生徒が醸し出す優れた学習環境は別海高校のよき伝統であります。

この別海高校が少子化に伴い、生徒数が減少し高校配置計画によって、間口減が続いていることは非常に残念なことでした。赴任した年、すでに普通科が三間口から二間口となっていました。別海町は道教委に、普通科の間口増を強く陳情していました。しかし、当時は一度間口減になると後戻りはできなかったのです。少しでも、間口増に繋げるためには、入学志願者を三間口維持の基準である八十一名以上にすることが必須でした。そのため、別海高校の更なる魅力づくりが喫緊の課題となっていました。そこで、高校の魅力づくりに成功し生徒数を劇的に増やしている島根県立隠岐島前高等学校に別海町と協同で視察に行くことの許可を道教委から受け、学校訪問しました。島前高校は、入学生が減少し、存続が危ぶまれていました。高校がなくなれば、島の中学卒業生が島外の高校へ進学します。その際、家族も島外に移動してしまうという状況が予想されていました。そこで、海士町は、高校の魅力化を推進するため、様々な支援を行っていました。校務を補佐する支援員を派遣したり、町内に学習のための施設（地域連携型公立塾隠岐國学習センター）を設け指導員を置いたりしていました。また、高校は島留学をいう触れ込みで全国から生徒募集していましたが、その島留学生ために高校に寮が設置されていました。この視察では、優れた島前高校の取り組みを学ぶだけではなく、高校が自治体から受ける支援についても学ぶよい機会となりました。

視察後すぐに別海町役場に別海高校の支援員を置いていただき、町の支援によって行われている部活動遠征費補助の事務手続きなどを行っていただくこととなりました。また、町は、寮（寄宿舎）の設置に向けた動きも加速してくださいました。改めて別海町並びに別海町教育委員会、各関係機関の皆様方に深く感謝申し上げます。

幸いなことに、別海高校を第一志望とする中学三年生の人数が多かったので、平成二十九年度高校配置計画では、別海高校普通科のクラスが一増となり普通科三間口が復活することとなりました。酪農経営科と農業専攻科の生徒募集も課題でした。牧場のない別海高校は育成牧場に出向いたり、地元の農家さんに出向いたりして実際の乳牛で実習していましたが、農家さんから乳牛をお借りしての実習が始まりました。それにしても、酪農経営科の農業クラブの取り組みは素晴らしかったです。研究成果発表するまでに、何度も練習を重ね努力する姿と実際の発表の立派さに感心しました。農業クラブの全国大会出場も嬉しかったです。農業専攻科は、全国でも五つしかない専攻科の一つで、知名度が低いのがネックになっていました。担当教員が東京や大阪などに出向いて学生募集をしていました。酪農などに就業しながら学ぶ学生の真摯な姿が印象に残っています。別海高校の二年間は高校の魅力づくりと生徒募集がメインの二年間でした。この間の、保護者の皆様の教育に対するご理解・ご協力、別海町並びに別海町教育委員会・各関係機関をはじめとする地域の皆様方のご支援・ご協力、教職員の皆様方のご努力に深く感謝いたします。この七十年間積み上がってきた歴史が糧となって別海高校は今日の隆盛を迎えているのだと思います。さらに、高いモラルと礼譲の心をもった生徒・卒業生の皆さんが、別海高校を支えています。別海高校が今後八十、九十、百周年と時を重ね、発展していくことを心より祈念いたします。

創立七十周年を祝して　～記念誌の発刊に寄せて～

北海道別海高等学校二十二代校長　古川栄一

北海道別海高等学校が創立七十周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

私は、平成二十九年度から二年間、校長として勤務させていただきました。

「平成十九年度に、道教委の高校適正配置計画に基づき昼間定時制から全日制酪農経営科へ転換し、文部科学省の「高校教育に関する指針」によるコミュニティ・スクール導入計画のモデル校として取り組んでから十年、地域、保護者と一体となって発展を続ける別海高校。さらに今年度から普通科一間口増。」そのような説明を受けての赴任には、大きな重圧とともに気概を感じていました。また、校長職、根室管内、普通科と専門学科の複数学科に加え専攻科の設置校など、いずれも初めての勤務であり、緊張感がありながらも学びや気付きの多い新鮮な毎日でした。

町内唯一の高校である別海高校は、別海町はじめ関係機関、地域の方々の厚いご理解・ご支援をいただいています。校長として、学校運営協議会委員の皆様との会議や懇談会、別海町教育委員会主催の定例校長会、そして第十七代校長・大塚保男先生（別海町教育委員・学校運営協議会委員）との意見交換やご指導等を受けて、①間口の維持、②酪農後継者育成、③進学実績向上、④部活動活性化、という課題・期待に応えることを使命として、生徒・保護者・教職員も、たゆまぬ努力を続けました。

一方、平成の三十年を経て、少子化に反して生徒の多様化は一層進み、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」と言われますが、全道的にも一言や二言で片付くほど容易な状況ではなく、学習・行事・部活動に成果を上げつつも、様々な問題を抱えた生徒への対応にも追われていました。指導に係る考え方や手法の違いから意見がぶつかることがあっても、生徒たちに寄り添い、やさしく励まし、時には厳しく諭しながら粘り強く指導する先生方の姿からは、結局、「皆、向かう方向は同じ」と安心感を持ったものです。

また、学習指導要領の改訂により高校教育が大きく変革しようとする時であり、キャリア教育や探究、カリキュラム・マネジメントなど多くのキーワードについての模索・思索に費やす時間も少なくありませんでした。結果、特にキャリア教育に関して、①職業観・勤労観の育成から出口指導で完結せず、生徒が生涯に渡り社会に貢献する資質能力の育成、②進路指導部の担当に止まらない教育課程全体・全教員による育成、の二つを念頭に、「キャリア教育推進部（仮称）」を立ち上げ、三年間継続の後、その後の在り方を検討することとしました。これは、（当時の私は）酪農経営科の研究への取組や農業クラブの諸活動に見られる課題研究等の実践、人材育成はまさに「探究」の手法に通じるもので、普通科の教育課程にも求められており、参考にできる取組があるのだから違った形であってもやらなければならないと、改訂後の「総合的な探究の時間」を見据えての決断でした。先生方の理解と、企画・運営に展望を持って部長に手をあげてくれた先生がいたことに感謝しています。残念ながら分掌立ち上げとともに私は異動となってしまいましたが、担当した先生が根室管内の教育実践表彰を受賞されたと耳にし、先生方を誇らしく思い、本当にうれしかったのを覚えています。

現在、私は全日制普通科・理数科の複数学科、かつ定時制併置の学校に勤務しています。理数科が持つ課題研究の手法を普通科にも取り入れ、科目名を「総合探究（学校設定科目）」として全教員体制で実践しています。別海高校での二年間、先生はじめ職場の同僚ほか多くの方々のサポート、町の方々のご支援・ご指導があったからこそ今の自分があると心の底から感謝しています。

北海道別海高等学校創立七十周年の節目を迎えられましたことにあらためてお祝い申し上げますとともに、より一層、保護者や地域から愛され、生徒が夢を持って生き生きと生活を送ることができる学校として発展されますよう心から願っています。

別海高校での勤務を振り返って

北海道別海高等学校二十三代校長　大　関　俊　郎
（北海道帯広農業高等学校長）

北海道別海高等学校が創立七十周年を迎えられますことに心からお祝いを申し上げます。

私は、ご縁をいただき管理職として二回の勤務の機会を賜ることが出来ました。この間、誠実で素直な生徒達、熱心で情熱溢れる先生方に囲まれながら、充実した学校運営をすることができたと思っています。

振り返って見ると、二〇一九年十二月初旬、中国武漢市において初感染が報告された新型コロナウィルスに翻弄される学校運営にもなりました。緊急事態宣言の発令により、多くの教育活動の制限が余儀なくされました。卒業式延期や参列者を制限する中での実施、令和元年度の卒業式は、来賓、保護者、在校生のご臨席もなく、教職員のみが参列する巣立ちとなりました。式の形態を決定したのも、数日前という状況でありました。このように急な判断を迫られる場面も多くありました。学校休業、学校閉鎖の実施などから学校に生徒の姿が見られないという、これまで経験したことのない期間を過ごしたこともありました。密を避けながらの分散登校も行いましたが、生徒の学力低下、大会中止によるモチベーション喪失、各家庭一人で過ごす時間の長さから、心のケアをはじめとして多くのことが心配されました。その後も、活動制限の継続により、部活動、農業クラブ大会の中止などが相次ぎ、日夜練習に励んできた生徒にとって悲しい思いをさせてしまいました。

そのような中、先生方からの発案で生徒への応援メッセージの送信や、録画機器を購入してリモート授業にも取り組みました。別海町からの支援で登録しているスタディ・サプリも大いに活用しました。また、消毒液をはじめ飛沫防止版の設置など素早い動きで対応できたことは、教員、保護者、地域の力であると確信しています。未だコロナ感染は、終息が見通すことができず、ウィズコロナの時代は今後も長期化が予想されますが、感染防止対策を含めた本校のコロナ対応は、本当に素晴らしかったことと感じています。学校で仲間とともに学ぶことの大切さや部活動など仲間と支え合い協力しながらの取り組みに重要性を再認識させられる一年でもありました。

また、少子化時代を見据えて、「将来構想委員会」を立ち上げて、幾度となく議論を重ねてまいりました。他校と同様、本校においても生徒の募集は大きな課題でもあります。間口維持には、中学生やその保護者から選ばれる学校づくりをしなければなりません。別海高校に進学しても自分の夢や希望を叶えることができるという認識を持ってもらわなければならないという声がありました。町外の高校を選ぶ理由として挙げられるのは、部活動と大学への進学実績です。そこで、進学指導に重点をおくコースの設置を図ることとしました。ＢＳＡＧ（ビーサグ）の取り組みです。そのような勢いもあり、令和二年度卒業生は、歴史に残る進学実績を挙げてくれました。合格発表が出る度に、校長室に報告があり、指導にあたった先生方と喜び合ったことも思い出されます。

道内初の公立高等学校で指定を受けた「コミュニティ・スクール」の充実もありました。設置初期と比べて、組織的な分科会の設置があり、各分野に秀でた専門家のご意見や実際の協力が学校教育の安定に繋がっていました。時を同じくして別海町内でも、三地区での学校運営協議会の組織することもあり、既に本校に設置されている学校運営協議会との連携を模索したところ、三つの地区の代表者の方に本校の委員に加わっていただくことで、義務教育段階との接続した教育や情報の交換がよりスムーズに行えるよう改善しました。このような形を作ることができたのは、別海町教育委員会のご指導であり心から感謝しています。

コロナ禍で、予定していたことができないというジレンマはありましたが、野球部は十九年ぶりに秋季全道大会へ出場を果たし、札幌円山球場で別海町ふるさと会の方々や野球部父母の会の皆さんと校歌を歌ったことも良い思い出であります。

思い出すまま書きましたが、素晴らしい学習環境に恵まれた本校が、道東の学びの拠点として今後ますます発展して行かれることを心からご祈念申し上げております。

沿革小史　平成22年～令和元年のあゆみ

（全日制課程普通科・酪農経営科）

平成22・4・1　着任　小池　博志　教頭、野田　周平　教諭
芝田　満　教諭、八重樫真由美教諭
尾崎　威　教諭、中村　地平　教諭
菊地　昭吾　教諭、畑山　友和　実習助手
小野寺義和　事務長

8　着任式・前期始業式・入学式
9　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
13　交通安全教室
14　搾乳実習（酪・～5月21日、10月13日～20日）
クラス内意見発表（酪・～15日）
15　専門学校進学相談会（3年）
27　農業クラブ総会（酪）
28　高体連等結団式
30　生徒総会
5・6　校内意見発表大会（酪）
10　宿泊研修（1年・～12日）　別海町共進会参加（酪）
18　薬物乱用防止教室
6・2　酪農研修（酪1年）
3　全道大会壮行式
7　前期中間考査（～9日）
11　育成実習（酪・～25日、9月7日）
14　委託実習・産業現場実習（酪2年・～18日）
22　校内技術競技大会（酪）
30　全道意見発表大会参加（酪・～7月1日）
7・10　学校祭（～11日）
21　生と性を考える講演会
26　夏季休業前全校集会
27　インターンシップ（普2年・～29日）
8・10　東北海道技術競技大会（酪）
20　夏季休業後全校集会
9・1　前期期末考査（～3日）
7　生徒会立会演説会役員選挙

9　体育大会（～10日）
18　産業祭参加（酪・～19日）
29　前期終業式
10・4　後期始業式
14　防災避難訓練
21　芸術鑑賞会
11・8　見学旅行（2年・～12日）
19　農業クラブ立会演説会・役員選挙
29　後期中間考査（～12月1日）
12・9　校内実績発表大会（酪）
24　冬季休業前全校集会
平成23・1・18　冬季休業後全校集会
20　東北海道実績発表大会（酪・～21日）
24　消費者被害防止教室（3年）
25　海外研修体験報告会（酪）・就農激励会（酪）
26　生と性の教室（3年）
28　交通安全教室（3年）
2・3　全道実績発表大会（酪・～4日）
10　予餞会
21　後期期末考査（～23日）
28　同窓会入会式　農業クラブOB会入会式（酪）
3・1　卒業証書授与式
24　離任式
転出　唐澤　隆博　教頭、平川　美彦　教諭
三宅　武寿　教諭、稲井浩太郎　教諭
仲本　大輔　教諭、角井　利博　事務長

平成23・4・1　着任　岸田　隆志　校長、鈴木新二郎　教諭
山口絵里子　教諭、佐藤　陽一　教諭
鈴木健太郎　教諭、佐藤　咲　教諭
岸部　雅峰　教諭、廣田　優子　実習助手
西村　淳　事務主任

8　着任式・前期始業式・入学式
11　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
13　交通安全教室
14　クラス内意見発表（酪・～15日）
26　農業クラブ総会（酪）
27　高体連等結団式
28　生徒総会

5・6　校内意見発表大会（酪）
10　宿泊研修（1年・～12日）
12　搾乳実習（酪・～5月24日、10月12日～13日）
別海町共進会参加（酪）
17　薬物乱用防止教室

6・2　酪農研修（酪1年）
3　全道大会壮行式
6　前期中間考査（～8日）
13　委託実習・産業現場実習（酪2年・～17日）
24　東北海道意見発表大会参加（酪）
30　校内技術競技大会（酪）

7・9　学校祭（～10日）
20　生と性を考える講演会
25　夏季休業前全校集会
26　インターンシップ（普2年・～28日）

8・17　東北海道技術競技大会（酪）
18　夏季休業後全校集会
30　体育大会（～31日）

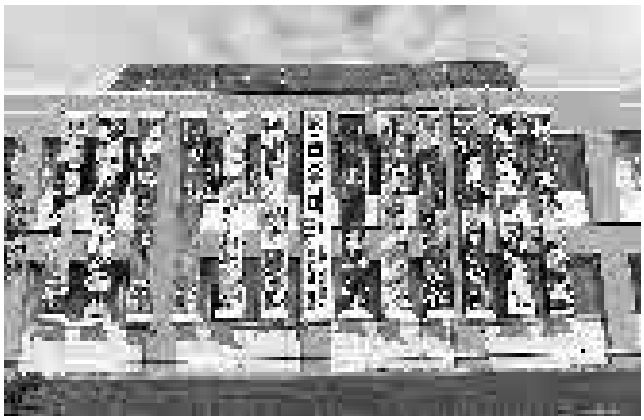
9・7　前期期末考査（～9日）
13　生徒会立会演説会役員選挙

17　産業祭参加（酪・～18日）
28　前期終業式
10・3　後期始業式
13　防災避難訓練
21　芸術鑑賞会
11・4　見学旅行（2年・～8日）
18　農業クラブ立会演説会・役員選挙
29　後期中間考査（～12月1日）
12・8　校内実績発表大会（酪）
21　冬季休業前全校集会
平成24・1・16　冬季休業後全校集会
19　東北海道実績発表大会（酪・～20日）
23　消費者被害防止教室（3年）
26　海外研修体験報告会（酪）・就農激励会（酪）
27　生と性の教室（3年）
30　交通安全教室（3年）
2・2　全道実績発表大会（酪・～3日）
10　予餞会
22　後期期末考査（～24日）
29　同窓会入会式　農業クラブOB会入会式（酪）
3・1　卒業証書授与式
23　離任式
転出　小池　博志　教頭、佐藤　一昭　教諭
高橋　幸生　教諭、藤井　隆史　教諭
大島　崇　教諭、更科俊一郎　教諭
小野寺義和　事務長

平成24・4・1　着任　佐藤　康則　教頭、白土　弥　教諭
加藤　知有　教諭、大村　竜二　教諭
伊藤　範秋　教諭、芳賀　恵一　教諭
小田　彩加　教諭、田中　浩　事務長

9　着任式・前期始業式・入学式
10　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
12　交通安全教室
16　クラス内意見発表（酪・～17日）
24　農業クラブ総会（酪）
25　高体連等結団式
26　生徒総会
5・8　宿泊研修（1年・～10日）
14　校内意見発表大会（酪）
15　薬物乱用防止教室
22　搾乳実習（酪・～24日、10月1日～19日）
6・4　全道大会壮行式
5　酪農研修（酪1年）
6　前期中間考査（～8日）
11　委託実習・産業現場実習（酪2年3年・～15日）
25　生と性を考える講演会
28　校内技術競技大会（酪）
7・14　学校祭（～15日）
24　夏季休業前全校集会
25　インターンシップ（普2年・～27日）
8・9　東北海道技術競技大会（酪）
20　夏季休業後全校集会
30　体育大会（～31日）
9・5　前期期末考査（～7日）
13　生徒会立会演説会役員選挙
15　産業祭参加（酪・～16日）
25　前期終業式
10・1　後期始業式

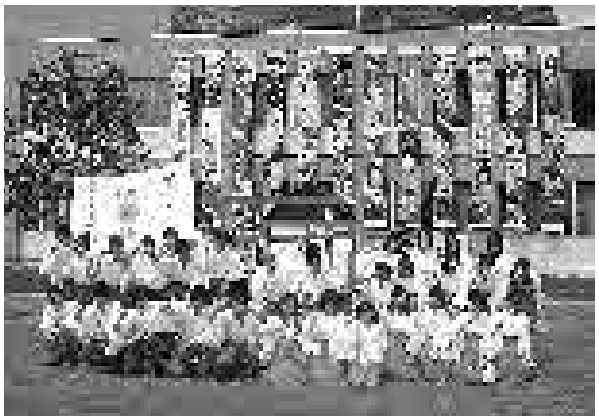
11　防災避難訓練
11・6　見学旅行（2年・～10日）
16　農業クラブ立会演説会・役員選挙
28　後期中間考査（～30日）
12・7　校内実績発表大会（酪）
25　冬季休業前全校集会
平成25・1・16　冬季休業後全校集会
18　東北海道実績発表大会（酪・～20日）
23　消費者被害防止教室（3年）
25　海外研修体験報告会（酪）・就農激励会（酪）
29　生と性の教室（3年）
30　交通安全教室（3年）
31　全道実績発表大会（酪・～2月1日）
2・1　予餞会
21　後期期末考査（～25日）
28　同窓会入会式　農業クラブOB会入会式（酪）
3・1　卒業証書授与式
22　離任式
転出　岸田　隆志　校長、鶴田　幸三　教諭
富士　勝文　教諭、松原　直紀　教諭
佐竹　将充　実習助手
西村　淳　事務主任



平成25・4・1　着任　杉田　良二　校長、松下　和子　教諭
久嶋　勲　教諭、古川　靖子　教諭
鼻和　大地　教諭、中田　野恵　教諭
富田　信弥　実習助手

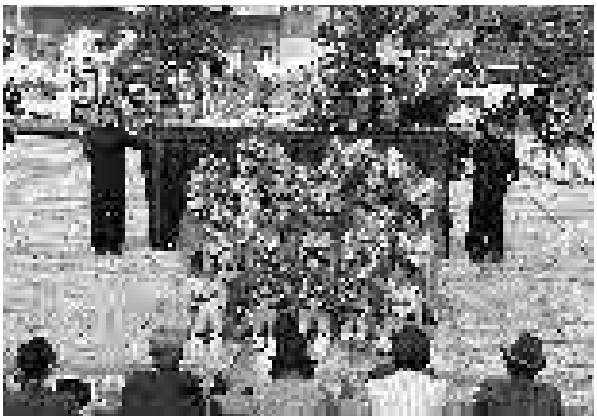
8　着任式・前期始業式・入学式
9　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
12　交通安全教室
15　クラス内意見発表（酪・～16日）
17　進学相談会（3年）
23　農業クラブ総会（酪）
24　高体連等結団式
25　生徒総会
5・8　宿泊研修（1年・～10日）　別海町共進会参加（酪）
搾乳実習（酪・～5月21日、10月3日～22日）
15　薬物乱用防止教室
16　校内意見発表大会（酪）
18　花苗、野菜苗販売会（酪）
6・3　全道大会壮行式
4　酪農研修（酪1年）
5　前期中間考査（～7日）
10　委託実習・産業現場実習（酪2年・～15日）
18　校内技術競技大会（酪）
24　生と性を考える講演会
25　育成実習（酪・～26日、9月17日～19日）
28　東北海道意見発表大会参加（酪・～7月1日）
7・20　学校祭（～21日）
22　東北海道技術競技大会（酪）
25　夏季休業前全校集会
29　インターンシップ（普2年・～31日）
8・20　夏季休業後全校集会
29　体育大会（～30日）
9・4　前期期末考査（～6日）

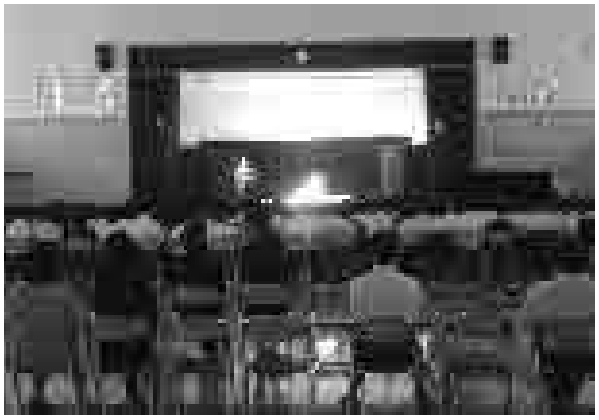
12　生徒会立会演説会役員選挙
14　産業祭参加（酪・～15日）
17　芸術鑑賞会
27　前期終業式
10・2　後期始業式
10　防災避難訓練
11・6　見学旅行（2年・～10日）
15　農業クラブ立会演説会・役員選挙
27　後期中間考査（～29日）
12・6　校内実績発表大会（酪）
24　冬季休業前全校集会
平成26・1・17　冬季休業後全校集会
21　東北海道実績発表大会（酪・～22日）
23　消費者被害防止教室（3年）
27　海外研修体験報告会（酪）・就農激励会（酪）
29　交通安全教室（3年）
2・5　全道実績発表大会（酪・～6日）
14　予餞会
21　後期期末考査（～25日）
28　同窓会入会式　農業クラブOB会入会式（酪）
3・1　卒業証書授与式
24　離任式
転出　佐藤　康則　教頭、遠藤由希子　教諭
古川　靖子　教諭、山本　孝行　教諭
森野　藍　教諭、畑山　友和　教諭
鼻和　大地　教諭、中田　野恵　教諭
田中　浩　事務長
髙橋　祐子　事務職員



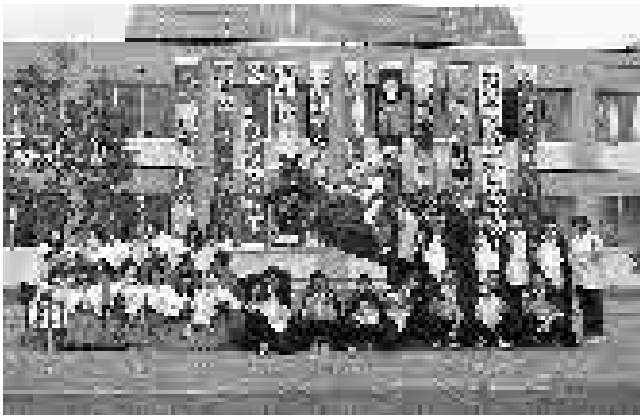
平成26・4・1　着任　後藤　卓　教頭、鈴木　健司　教諭
西島　博樹　教諭、川北　寛子　教諭
鈴木　洋亮　教諭、菅谷　啓輔　教諭
海鉾　崇貴　教諭、藤村　稜　実習助手
伊藤　正敏　事務長、大竹　実　事務主任

8　着任式・前期始業式・入学式
9　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
11　交通安全教室
15　クラス内意見発表（酪・～16日）
18　進学相談会（3年）
22　農業クラブ総会（酪）
23　高体連等結団式
24　生徒総会
5・7　搾乳実習（酪・～9日、10月2日～22日）
8　宿泊研修（1年・～10日）
9　別海町畜産総合共進会参加（酪）
14　防災避難訓練
15　校内意見発表大会（酪）
17　花苗・野菜苗販売会
6・2　全道大会壮行式
3　酪農研修（酪1年）
4　前期中間考査（～6日）
9　委託実習・産業現場実習（酪2年・～13日）
17　校内技術競技大会（酪）
20　生と性を考える講演会
27　東北海道意見発表大会参加（酪）
7・10　薬物乱用防止教室
19　学校祭（～20日）
23　夏季休業前全校集会
28　インターンシップ（普2年・～30日）
8・12　東北海道技術競技大会（酪）
19　夏季休業後全校集会





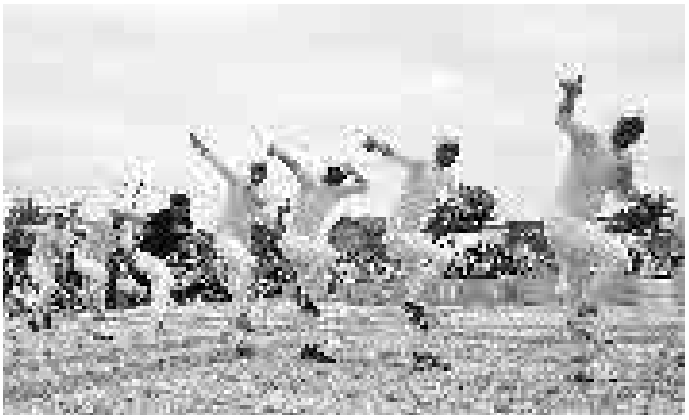
9・3　28　体育大会（～29日）
　　前期期末考査（～5日）
　11　生徒会立会演説会役員選挙
　13　産業祭参加（酪・～14日）
　22　芸術鑑賞会
10・1　後期始業式
　6　防災避難訓練
11・5　見学旅行（2年・～9日）
　14　農業クラブ立会演説会・役員選挙
　26　後期中間考査（～28日）
12・5　校内実績発表大会（酪）
　22　冬季休業前全校集会
　　冬季休業後全校集会
平成27・1・15
　22　消費者被害防止教室（1年）
　　東北海道実績発表大会（酪・～23日）
　26　海外研修体験報告会（酪）・就農激励会（酪）
2・5　全道実績発表大会（酪・～6日）
　13　予餞会
　20　後期期末考査（～24日）
　27　同窓会入会式　農業クラブOB会入会式（酪）
3・1　卒業証書授与式
　24　離任式
　　転出　杉田　良二　校長、　上田　保夫　教諭
　　鈴木新二郎　教諭、　松村　正宗　教諭
　　白土　弥　教諭、　早坂　太吾　教諭
　　加藤　知有　教諭、　尾崎　威　教諭
　　鈴木　洋亮　教諭、　菅谷　啓輔　教諭
　　伊藤　正敏　事務長、　横田　和美　主任主事



平成27・4・1　着任　高橋　尚紀　校長、治田　理知　教諭
岡　伸吉　教諭、宮舘　健士　教諭
桐山　剛志　教諭、明石　哲　教諭
本間　敦志　教諭

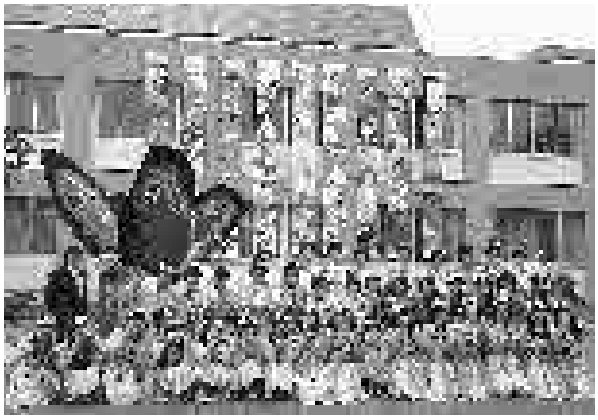
8　着任式・前期始業式・入学式
9　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
13　交通安全教室
15　クラス内意見発表（酪・～15日）
22　高体連等結団式
23　東北海道農業クラブ代議委員会（当番校）
24　生徒総会・HR役員認証式
28　身体測定
30　プロジェクト計画発表会
5・8　第1回PTA学級代議委員会　宿泊研修（1年～10日）
20　校内意見発表大会
26　農業機械実習
29　PTA役員会
6・1　全校集会　全道大会壮行式
3　前期中間考査（～5日）
8　委託実習（酪2・3年～12日）
18　東北海道リーダー研修会
19　生と性を考える講演会　東北海道リーダー研修会
23　校内技術競技大会（酪）
7・18　学校祭（～19日）
23　夏季休業前全校集会
27　インターンシップ（普2年・～30日）
8・6　東北海道技術競技大会（酪）
18　夏季休業後集会
20　全道意見発表大会（～21日）
27　体育大会（～28日）
9・2　前期期末考査（～4日）
10　生徒会立会演説会役員選挙

16　育成実習（酪～18日）
19　産業祭参加（酪・～20日）
28　芸術鑑賞
10・1　後期始業式
7　搾乳実習（酪～9日）
21　農業クラブ全国大会（酪～22日）
11・5　見学旅行（2年・～9日）
18　農業クラブ役員選挙
25　後期中間考査（～27日）
12・4　校内実績発表大会（酪）
9　第2回鑑定競技会
21　冬季休業前全校集会
平成28・1・15　冬季休業後全校集会
20　東北海道実績発表大会（酪・～21日）
25　消費者被害防止教室（3年）
26　就農激励会（酪）海外研修体験報告会（酪）
28　交通安全教室（3年）
2・4　全道実績発表大会（酪・～4日）
5　予餞会
22　後期期末考査（～24日）
29　同窓会入会式　農業クラブOB会入会式（酪）
3・1　卒業証書授与式
24　離任式　終業式
転出　後藤　卓　教頭、中島　英樹　教諭
石澤　正幸　教諭、中山　靖子　教諭
鈴木健太郎　教諭、佐藤　咲　教諭
高橋　野恵　教諭、本間　敦志　教諭
富田　信弥　実習助手
藤原　正明　事務長

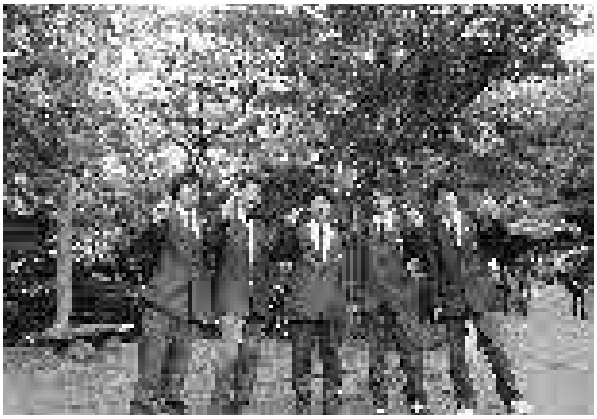


平成28・4・1　着任　織井　恒　教頭、原　翔平　教諭
長嶋　旬佑　教諭、高橋　克宣　実習担任教諭
小林　沙生　事務職員

8　着任式・前期始業式・入学式
11　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
13　交通安全教室
15　クラス内意見発表（酪・～15日）
17　携帯電話安全教室・ＰＴＡ講演会　ＰＴＡ総会
22　高体連等結団式
25　生徒総会・ＨＲ役員認証式
26　東北海道農業クラブ代議委員会（当番校）
27　身体測定
28　プロジェクト計画発表会　ＰＴＡ三役会
5・6　第１回ＰＴＡ学級代議委員会
7　宿泊研修（１年～９日）
13　校内意見発表大会
27　ＰＴＡ役員会
31　全校集会　全道大会壮行会
6・1　前期中間考査（～３日）
6　委託実習酪（２・３年～12日）
7　酪農研修（酪１年）
16　東北海道リーダー研修会
17　生と性を考える講演会　東北海道リーダー研修会
22　校内技術競技大会（酪）
7・7　薬物乱用防止教室
23　学校祭（～24日）
28　夏季休業前集会
8・1　インターンシップ（普２年・～４日）
8・10　東北海道技術競技大会（酪）
22　夏季休業後集会
23　全道意見発表大会（～21日）
26　育成実習（酪）
30　育成実習（酪）



9・5　前期期末考査（～7日）
9　育成実習・販売実習（酪）
12　ミニ人間ドッグ
17　産業債参加（酪～18日）
21　生徒会立会演説会役員選挙
28　体験入学
29　体育大会（～30日）
10・4　後期始業式
5　搾乳実習（酪～7日）
26　農業クラブ全国大会（酪～27日）
11・5　見学旅行（2年・～9日）
16　農業クラブ役員選挙
22　後期中間考査（～25日）
12・2　校内実績発表大会（酪）
7　第2回鑑定競技会
22　冬季休業前全校集会
冬季休業後全校集会
平成29・1・17　東北海道実績発表大会（酪・～20日）
19　消費者被害防止教室（3年）
23　就農激励会（酪）海外研修体験報告会（酪）
24　実績発表大会（酪）
25　交通安全教室（3年）
26　全道実績発表大会（酪・～3日）
2・2　第2回ＰＴＡ学級代議委員会
8　予餞会
14　ＰＴＡ役員会
17　後期期末考査（～23日）
21　同窓会入会式　農業クラブＯＢ会入会式（酪）
28　卒業証書授与式
3・1　離任式　終業式
24　転出　髙橋　尚紀　校長、佐藤　陽一　教諭
松下みどり　教諭、長島　旬佑　教諭
廣田　優子　実習助手



平成29・4・1　着任　古川　栄一　校長、髙橋　慎吾　教諭
渡部　陽介　教諭、窪田　智也　教諭
松田　知記　教諭、樋口　達也　教諭
後藤　真樹　実習助手、渡辺和典　主任主事、

5・1　校内意見発表大会（酪）
6・2　全道大会壮行式
7・4　夏季休業前全校集会
8・8　夏季休業後全校集会
9・4　前期期末考査（～6日）
10・3　後期始業式
11・7　農業クラブ立会演説会・役員選挙

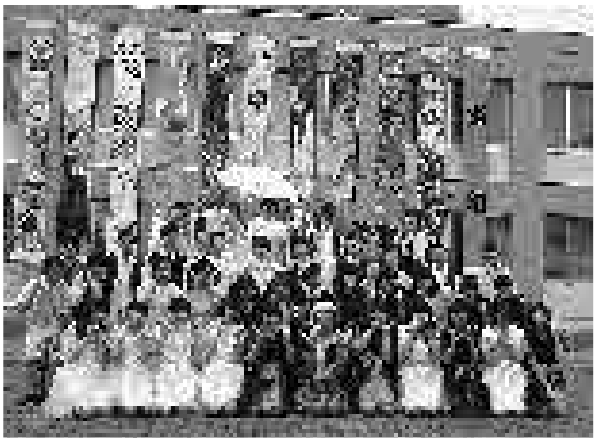
10　着任式・前期始業式・入学式
11　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
13　交通安全教室・農業クラブ総会（酪）
14　クラス内意見発表（酪・～17）
21　高体連等結団式
24　生徒総会
9　宿泊研修（1年・～11日）
7　前期中間考査（～9日）
13　酪農研修（酪1年）
21　東北海道意見発表大会参加（酪）
23　生と性を考える講演会
26　委託実習・インターンシップ（酪2・3年～29日）
22　学校祭（～23日）
26　インターンシップ（普2年・～8月3日）
31　3地域連盟技術競技大会（酪・～9日）
21　前期期末考査（～6日）
16　産業祭参加（酪・～17日）
20　生徒会立会演説会役員選挙
28　体育大会（～29日）
5　防災避難訓練
15　見学旅行（2年・～11日）

27　後期中間考査（～11月29日）
校内実績発表大会（酪）
25　冬季休業前全校集会
平成30・1・19　冬季休業後全校集会・東北海道実績発表大会
24　消費者被害防止教室（1年）
25　海外研修体験報告会（酪）・就農激励会（酪）
29　交通安全教室（3年）
2・1　全道実績発表大会（酪・～2月2日）
9　予餞会
20　後期期末考査（～22日）
28　同窓会入会式　農業クラブOB会入会式（酪）
3・1　卒業証書授与式
23　離任式
転出　織井　恒　教頭、松下　和子　教諭
大村　竜二　教諭、松田　知記　教諭
藤村　稜　教諭、後藤　真樹　実習助手

平成30・4・1　着任　篠原　圭　教頭、田村　優介　教諭
武村まゆみ　教諭、西原　怜良　教諭
石川　如也　教諭、町田　大樹　実習助手
川野すみれ　実習助手

9　着任式・前期始業式・入学式
10　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
12　交通安全教室・農業クラブ総会（酪）
17　クラス内意見発表（酪・～18）
20　高体連等結団式
23　生徒総会
5・8　校内意見発表大会（酪）
9　宿泊研修（1年・～11日）
6・4　全道大会壮行式
6　前期中間考査（～8日）
12　酪農研修（酪・1年）
13　インターンシップ（酪・2・3年　～15日）
20　薬物乱用防止教室
22　東連意見発表大会参加（酪）
29　校内技術競技大会（酪・7月3日）
7・14　学校祭（～15日）
27　夏季休業前全校集会
30　インターンシップ（普2年・～8月2日）
8・7　全道技術競技大会（酪・～8日）
17　夏季休業後全校集会
9・5　前期期末考査（～7日）
13　生徒会立会演説会役員選挙
20　体育大会（～21日）
15　産業祭参加（酪・～16日）
28　芸術鑑賞会
10・2　後期始業式
4　防災避難訓練
11・7　見学旅行（2年・～11日）
16

26　農業クラブ立会演説会・役員選挙
12・6　後期中間考査（～11月28日）
25　校内実績発表大会（酪）
平成31・1・17　冬季休業前全校集会
25　冬季休業後全校集会・東北海道実績発表大会
25　消費者被害防止教室（1年）
28　海外研修体験報告会（酪）・就農激励会（酪）
31　交通安全教室（3年）
2・18　全道実績発表大会（酪・～2月1日）
22　後期期末考査（～20日）
28　予餞会
3・1　同窓会入会式　農業クラブOB会入会式（酪）
22　卒業証書授与式
離任式
転出　古川　栄一　校長、國友　浩次　教諭
桐山　剛志　教諭、本行　隆司　事務長



平成31・4・1　着任　大関　俊朗　校長　村中共太郎　教諭
関本　裕希　教諭　伊藤祐加奈　教諭
原口　隼人　教諭　廣村　啓　教諭
風間　康平　事務長

8　着任式・前期始業式
9　入学式　ＰＴＡ入会式
10　対面式・生徒会入会式　農ク入会式（酪）
11　交通安全教室
18　クラス内意見発表（酪・～18）
19　高体連等結団式　避難訓練
21　携帯電話安全教室　第１回三役会
23　生徒総会　HR役員認証
令和元・5・8　宿泊研修（１年・～10日）
13　校内意見発表大会（酪）
6・3　全道大会壮行式　高野連結団式
5　前期中間考査（～７日）
10　酪農研修（酪・１年）
20　構内技術競技大会（酪）
28　東連意見発表大会参加（酪）
7・5　性と生を考える講演会
20　学校祭（～21日）
30　夏季休業前全校集会　全国大会壮行式　高文連結団式
31　インターンシップ（普２年・～８月２日）
8・1　全道技術競技大会（酪・～８日）
19　夏季休業後全校集会
22　全道意見発表大会（～23日）
9・4　前期期末考査（～６日）
13　生徒会立会演説会役員選挙
11　インターンシップ（酪～12日）
26　体育大会（～27日）
10・1　後期始業式
3　防災避難訓練

23　農業クラブ全国大会（酪～24日）
11・6　見学旅行（2年・9～日）
27　後期中間考査（～29日）
12・25　冬季休業前全校集会
令和2・1・17　冬季休業後全校集会・東北海道実績発表大会
23　消費者被害防止教室（1年）
27　海外研修体験報告会（酪）・就農激励会（酪）
29　交通安全教室（3年）全道実績発表大会（酪～31日）
2・17　後期期末考査（～19日）
28　同窓会入会式　農業クラブOB会入会式（酪）
3・1　卒業証書授与式
23　離任式
転出　治田　理知　教諭、西島　博樹　教諭
山口絵里子　教諭、川北　寛子　教諭
原　翔平　教諭、小林　祐子　主任主事

回想・思い出

（全日制課程普通科・酪農経営科）

旧・現職員

別海高校70周年に寄せて

教諭　高橋幸生
（北海道旭川農業高等学校勤務）

私が別海高校でお世話になったのは２００７年４月からの５年間です。在籍期間が長くはない私にいったい何が話せるだろうかと考えてみると、次々と様々なことが思い出されました。

別海高校に赴任して驚かされたのは「別海には空き地がない」と聞かされたときでした。私には原っぱにしか見えなかったその場所は別海の基幹産業を支える「牧草地」という大切な場所でした。

別海高校では野球部の顧問をさせていただきました。別海高校野球部との出会いは実際に赴任する約10年前に遡ります。釧路市民球場で見かけた別高野球部の生徒達はとても逞しく、この子達と野球ができたら面白そうだなと思ったものでした。念願かなって別高野球部の顧問となり、あまりよい結果は残せませんでしたが、現在でもつながりのある大切な出会いを得ることができました。

２００８年からは担任として生徒と関わる機会をいただきました。担任として生徒と関わる中で私が毎年ひそかに楽しみにしていたのは家庭訪問です。東西60キロ、南北30キロの土地に点在する町々を訪ねて走り回るのはちょっとしたドライブです。家庭訪問に行くと牛舎に案内してくれて乳搾りをさせてくれた生徒もいました。生徒の働く姿を見ることができるのも家庭訪問の楽しみのひとつです。

２００９年は新型インフルエンザが猛威を振るった年でした。担任として見学旅行を控えていた時期で、いつも以上に入念な準備と慎重な対応が求められました。見学旅行前、新型インフルエンザに罹患した生徒が複数名出たクラスは学級閉鎖にするなどし、何とか全員で出発することができました。旅行中発熱した生徒は一時隔離、連れて帰る先生は誰々、保護者にはどこそこまで迎えに来てもらうといったシミュレーションをしていただけに、全員で出発し戻ってこられたことに安堵し、達成感を感じたことを覚えています。

総合的な学習の時間では学校の農場で野菜作りをしたり、町の人の力を借りて陶芸や手芸教室を開講するなど充実した活動を行うことができました。

余談ではありますが、２００９年の第２回ＷＢＣ決勝の韓国戦でイチローが放ったヒットや、東日本大震災の津波の第一報といった歴史的な出来事を目にした場所は職員室です。

私は別海高校のことを人に紹介するとき、郡部の奇跡と紹介することにしています。また、別海高校にいたことを人に話すとき、なぜか誇らしい気持ちになっている自分がいます。北方領土を望む海、矢臼別演習場から流れてくる砲弾の音、牧草のにおいを乗せた緑色の風、別海コロンの香。物や出来事だけでなく音や匂いとともに記憶に残っているのが別海町、そして別海高校です。別海高校が今後とも郡部の奇跡であり続けることを願っています。

別海高校勤務の思い出

教諭　**塩　田　英　樹**
（北海道弟子屈高等学校勤務）

別海高校創立七十周年おめでとうございます。私は平成二十年四月から令和三年三月までの十三年間別海高校で勤務させていただきました。

別海高校での勤務を振り返りますと、良い思い出がたくさんあります。

教員としての別海高校との関わりは、引越予定の四月一日が大雪のため移動できず、一日遅れての移動となったところから始まりました。翌日、公宅に到着すると、都市部では、そして今の時代では少なくなった光景ですが、たくさんの先生方や生徒達が引越の手伝いをしてくれました。こうして着任の日を迎えましたが、校舎は、外観は他校とは異なった造りで、新しく、校内は清掃が行き渡り、非常にきれいで、また、生徒達が何より、素直で、礼儀正しく、元気であったことが印象に残っています。また、入学式では「校歌隊」の生徒達による校歌の合唱があり、これを聞いて、「素晴らしいな」と思い感動したことも覚えています。

別海高校での勤務は、私の教員としての経験の幅を広げることになった十三年間でした。私個人としては初めての仕事をいくつもさせていただきました。生徒達は、素直で、誠実な生徒が多く、また、先生方もそれに応えようと取り組んでいました。私は、この十三年間、これまでの生徒、先生方、地域の方々が築き上げてきた別海高校の良き伝統（私は、その一つは、生徒達にとって居心地が良く、安心して登校できる学校であることだと思っています）を崩さずに、次に引き継いでいくことが使命であると思い、そのことを心がけていました。

別海高校での教育活動の中で、私が特に覚えているのは、当時の、他の先生方や生徒達は余り記憶にないかもしれませんが、「総合的な学習の時間」の取り組みです。最初に担任を持った学年では、一年生の時に、障害を持った方との交流、手話の学習、二年生の時に高齢者との交流、三年生の時に、小学生との交流とプレゼンテーション発表を行ったと記憶していますが、今にして思えば、今日、多くの学校で取り組んでいる地域と連携した「総合的な探究の時間」の先駆け的な取り組みであったと思います。生徒達と一緒に考えて取り組んだことを覚えています。

宿泊研修、学校祭、見学旅行、体育大会、予餞会、部活動…。思い出がたくさんあります。良き生徒、良き同僚、先輩方に恵まれ、地域の支援もあり、楽しく、充実した時間を私自身過ごすことができました。非常に感謝しております。

最後に、これからも別海高校が地域の学校として愛され、生徒のみなさん、教職員のみなさんの手によって、新しい伝統を創造し、益々発展されて行かれることを願っております。

人美し

教諭　**野　田　周　平**
（北海道根室高等学校勤務）

別海高校創立七十周年、誠におめでとうございます。旧職員として、また、別海町民として心よりお祝い申し上げます。

別海高校でお世話になったのは、平成二十二年度（二〇一〇年度）から令和二年度（二〇二〇年度）までの十一年間です。

着任とともに担任・学年主任を務め、着任した年に子どもが生まれました。最初に受け持った生徒たちとは、初めての学校祭、初めての体育大会などをともに経験し、一緒に別海高校になじんでいったように感じ

ています。とても快活で、小さなトラブルなどは自分たちで解決できる人たちです。

その生徒たちの卒業後、育児が忙しくなり、定時に退勤する日々となりました。

休みを取ることも増え、業務を回せるか心配しましたが、教科や分掌の先生方をはじめ、多くの先生方の支えがあって、無事勤めることができました。

平成三十年度（二〇一八年度）からは、二度目の担任・学年主任を務めました。定時退勤の日々は変わらず、ここでも担任団、副担任の先生、学年団の先生方など、多くの方に助けていただき、無事に卒業まで勤めることができました。このときの生徒たちは、退勤時間でいなくなる担任の事情も汲んでくれ、担任が学校にいるうちに用件を済ませるよう気を遣ってくれました。自律的でとても心優しく、人を大切にできる人たちです。

別海高校は、いつも保護者や地域の皆様の温かい目が注がれ、支援をいただける学校です。

保護者の皆様は、子どもたちには励ましを、私たちには信頼を与えてくださいました。

農協や漁協など、地域の皆様は、さまざまな教育活動のために学校に来てくださり、教員には与えることのできない知見を生徒たちに授けてくださいました。別海町役場、町教育委員会の皆様も、地域の学校として多大なご支援をくださいます。ここには書き切れないほどの多くの方が、支えてくださっています。

「別海の子たちは別海で育てたい。」

在職中、この言葉を何度も耳にしました。私たち教職員も同じ気持ちで職務にあたりました。生徒、保護者、地域、教職員の温かい連携が、別海高校のすばらしさだと思っています。

末筆となりましたが、別海高校のますますのご発展をお祈りします。

目には見えない大切なものを繋ぐために

教諭　芝田　満
（北海道別海高等学校勤務）

前任校を離任する際、「ここで得た財産を地元別海で生かす」という決意のもと別海に戻ってきました。

別海高校に赴任して今年で十三年。今までに多くの生徒と先生方の旅立つ姿を見送ってきました。その度に、残していってくれた大切なものをどのように繋ぐのか？どうすれば繋いでいけるのか？を考え、今に至っています。残していってくれたものは、目に見えるものではありません。サン＝テグジュペリの著書『星の王子さま』の中で「大切なものは目に見えない」という有名な一文があります。この一文の意味を考え、自分なりに模索し、大切なものを観ようとし続けた別海高校での十三年間でした。このことは、現在進行形で今も考え、向き合い続けていることです。

振り返ってみると、「別海高校に存在し続ける、目には見えない大切なもの」と一番向き合ったのは、学年主任という重責を初めて担った時でした。日々生徒に向き合う中で生まれてくる正解のない問いに対して、自問自答や職場の仲間と会話を繰り返し、目に見えない大切なものを観るための「心眼」を養う鍛錬をし続けました。また、正解のない問いに対して、問いの本質は何なのか？解決すべき課題の重心はどこにあるのかを日々考え続けました。この時期は私にとって一番苦しく、それゆえに教師として成長できた時期だと思います。別海高校で、生徒や職場の

仲間に恵まれて、自分を高められたことは、現在の私にとっての大きな財産です。

今私は、別海高校で二回目の学年主任を務めています。1回目の学年主任を務めた時と、社会の様子も、環境も、生徒も、先生方もすっかり変わりました。しかし、どんなに周りが変わろうとも、変わらない、変わってはいけない大切なものが別海高校にはあります。それは、目に見えるものではないから、自らが考え、観ようとし続けなければなりません。また、目に見えるものではないから、人と人の関わりを通じて繋いでいく必要があります。七〇年の歴史と伝統を未来に繋ぐことができるよう、明日もまた、私は教壇に立ちたいと思います。

最後に、七〇周年の節目をこうして別海高校の職員として迎えられたことを光栄に思い、心からお祝いと感謝申し上げます。

人との出会い

教諭　石澤　正幸
（北海道美幌高等学校）

私は平成19年4月から平成28年3月までの9年間、別海高校でお世話になりました。9年間の中で生徒会顧問・保健安全部長・2度の担任、そして学年主任と要職を任せていただき大変感謝しております。また、9年間の教育活動を通して、様々な経験や勉強が出来た事は、私の教育者としての土台になっていると強く感じています。

9年間の歳月を振り返ると、本当に「人」との出会いに感謝しなければなりません。地域の方々はもちろん、礼儀正しく、行事に熱くなれる生徒達。教育者としても、大人としても、魅力のある先生方との出会い。そして、いつも温かく見守ってくれた保護者の方々や地域の方々との出会い。9年間の別海高校の勤務で出会った人達全てが私の財産です。

管理職・事務の方々を含めた「チーム別海高校」は、熱い気持ちを持って子ども達を指導していました。指導の中で、「人としての在り方や生き方」を子ども達に語っていた姿は、私自身の生きる指針にもなっています。

応援団でもある保護者の方々や地域の方々とは、平成28年3月1日の卒業式での出来事が忘れられません。あの時は爆弾低気圧の影響により、全員参加での卒業式が危ぶまれました。しかし、暗いうちから保護者の方々や地域の方々が重機を稼働させ、国道までの除雪を行ったことにより、全員参加の卒業式と、子ども達との最後の別れを行う事が出来ました。電話口で「先生、除雪は何とかするから、卒業式期待しているよ」と言葉をいただいた時は、「別高で働けて良かった」と大きな感謝をした事を今でも鮮明に覚えています。

私の教員人生において、別海高校での9年間は、本当に思い出深く、多くの人達との出会いを通して、たくさんの勉強させていただきました。私の教員人生も折り返しとなりました。退職して振り返った時、別海高校での9年間は、間違いなく、私にとっての財産でもあり、土台を作り上げた時間だと言えると思います。本当にありがとうございました。

最後に、別海高校が永久に栄光あることをご祈念して、回想文を終わりにさせていただきます。

別海高校七十周年を記念して

教諭　佐藤陽一
（北海道釧路工業高等学校勤務）

別海高校には、平成二十三年四月に赴任し、平成二十九年三月までの六年間勤めさせていただきました。別海町は根室市出身の私には地元と言えるほど近い土地で、幼少期の記憶に残る別海町からは大きな変貌を遂げていました。特に商業施設が充実しており、実際に生活する上で困ったことはありませんでした。この別海町で過ごした六年間は、まだ未熟であった私を成長させてくださった貴重な時間でした。

別海町は、酪農業だけではなく、その広大な土地から海に隣接しており、漁業についても盛んな土地です。同様に環境が豊かであり、感受性の高い生徒が多かったように感じます。地元への誇り、都会への憧れ、それぞれの生徒がそれぞれの夢を抱き、本当に多くの場で活躍しています。特に印象に残っているのが、個を受け入れ、互いに支え合い、共に成長していく姿でした。学年主任、担任として、彼らと過ごした時間の中で、最も印象的で、感動した瞬間であったと同時に、彼らの成長のために私自身も成長し、支援していこうと誓った瞬間でもありました。

『日々是新』という校訓は、生徒だけでなく、私たち教員にも重要な言葉です。これまでの自分に満足するのではなく、新しい自分を形成し、成長し続けることの大切さを含んでいる言葉だと考えています。別海高校の6年間での勤務において、多くの先輩教員の皆様に公私共に支えていただき、これまでの自分を捨て、成長することができたのも、この校訓と出会いによるものだったと思っています。

私が過ごした別海高校での六年間では、私が受け持った学年で初めて普通科2クラス、酪農経営科1クラスとなり、別海高校の今後の岐路に立たされた瞬間であったと考えています。しかしながら、生徒想いの温かい教員集団、とても強力的な地域・保護者の皆様、教育活動への手厚い支援・協力をしてくださった別海町のおかげで、受け持った生徒の卒業だけでなく、普通科3クラス、酪農経営科1クラスの計4クラスに戻すことができたと考えています。

私自身の生まれも同管内の根室市で、別海町という地域の温かさは幼少期から知っていました。実際に勤務してからも印象は変わらず、多くの方々に支えていただきました。支えていただいたことへの感謝を忘れず、どこの勤務地でも、別海町の子どもたちの様に温かい心を持った生徒の成長を支えていくため、今後も変わらず教育活動に努めていきます。

これからの別海町・別海高校の益々の発展と、多くの卒業生が地元またはそれぞれの場所で活躍するよう祈願し、北海道別海高等学校の七十周年の祝いの言葉とさせていただきます。

地域に支えられて

教諭　松下和子
（北海道清水高等学校勤務）

70周年を迎えられた別海高校、おめでとうございます。

私は平成25年4月から5年間、別海高校にお世話になりました。当時、酪農、漁業、商業の各地域がある別海町の広大な自然に圧倒されるとともに、自然豊かな土地に住めることが嬉しかったです。また、赴任時の「家庭訪問では一日百kmを越えることもある」という先輩教員の言葉を家庭訪問で実感し、私の距離感が大きく変わりました。私は様々な意識変革を別海高校ですることができ、とても感謝しております。

さて、私が赴任した当時、別海高校の校舎は築10年ほどでした。とても綺麗で、間取りにもゆとりがあり、設備も充実しており、生徒が大切に使っていました。大掃除の時、生徒が隅々まで丁寧に清掃していたことを覚えています。机と椅子は木製で、3年間持ち上がって使用していました。ここからも、物を大切にしようという心が育まれていたと思います。また今と同様、全日制普通科と酪農経営科、別棟にある昼間定時制の農業特別専攻科がありました。高校勤務が初めてだった私は科の違いに戸惑いました。しかし、高校周辺に農地があり、そこで実習を行う生徒が夏から秋にかけて収穫した野菜を職員や町内の方々に販売している姿に感動していました。自然の恵みを体感できる学校は教育環境の豊かさを感じられ、教育効果が高いと思いました。

学校祭は2日間かけて行っていました。1日目は、別海高校敷地内の倉庫で作った山車で町内を練り歩き、別海町交流館ぷらと前の広場でパフォーマンスを披露しました。2日目は一般開放があり、3年生は模擬店、1・2年生は展示を行いました。各教科・各部活動の展示、和太鼓披露、地域の方々の発表もありました。生徒は来場した方々に楽しんでいただこうと工夫し、将来の仕事に生かされる接客を学んでいました。多くの観客や来校者で賑わう学校祭は、町ぐるみで別海高校を応援してくださっていることを実感できる場でもありました。

私は、平成27年度入学生の担任と卒業年度の学年主任を務めました。普通科2学級、酪農経営科1学級の計3学級です。学校行事にとても熱心な学年でした。学校祭の時、3週間前から毎日ほぼ全員が居残り、学校祭前日や当日は保護者の方々のご協力を賜りながら、普段より数時間早く登校して、より良いものを作ろうと取り組んでいました。今年度、大学へ進学した生徒も社会人となり、それぞれの道に進んでいると聞いています。

別海高校は、地域の皆様に支えられている学校です。生徒一人ひとりが自己の能力に応じて日々頑張れ、自己実現を目指せる環境にあります。今後も益々発展していくことを祈念しております。

素晴らしき高校・生徒・地域

教諭　桐山剛志
（北海道釧路湖陵高等学校勤務）

別海高校70周年おめでとうございます。私も伝統ある別海高校の一員として活動できたことを嬉しく思います。

私は平成27年に着任し、4年間お世話になりました。当時は普通科が2間口に減って2年目で、間口回復を目指して別海高校の魅力化とPRに力を入れていた時でした。

私もバドミントンの指導者資格を有していたので、町内の中学校に指導に出向いたり、高校で合同練習を実施したりしました。後には合同練習に参加した中学生が別海高校に進学し、創部以来初の全道大会進出を成し遂げてくれました。良い地域連携ができたとの自負もありますが、別海高校バドミントン部の土台を作ってくれた大村先生、地域との橋渡しを担ってくださった管理職、熱意ある中学校の顧問の先生、丁寧に中学生をエスコートしてくれた部員には感謝の気持ちで一杯です。

「高校魅力化」を学ぶため、隠岐島前高校へ視察研修にも行きました。この研修を通して「地域の高校」というものについて、様々な気づきを得ることができ、大きく視野が広がる研修でした。

結果、高校と町の努力が実を結び、平成30年に間口回復が実現したことは、今でも良い思い出となっています。

また、別海高校の真面目で温かい生徒と供に学校生活を送れたことも

大切な思い出となっています。

日本史Ｂでは進学指導のスキルを磨くとともに、古代米や「蘇」を食したり厚田で採取した原油を燃やしてみたりと体験的な授業を行い、教科指導の幅を広げることができました。

担任として卒業生を送り出すこともでき、２学年からは学年主任も兼務しました。学年の生徒も自ら考えて行動するバイタリティ溢れる生徒たちで、担任として充実した日々を送り、涙の卒業式を迎えることができました。一方、学年主任としては各方面からの意見に対応するなど大変な日々でしたが、ご助力くださった先生方のおかげで何とか乗り切ることができました。特に進学において埼玉大学など４名が国公立大学に合格することができたのは、熱心な先生方の指導あっての成果です。

思い起こすと別海高校での日々は、自分の教員としての幅と深みをより一層広げてくれた貴重な時間でした。このような素晴らしい高校と地域が末永く続き、生徒がより一層活躍することを祈念しております。

同窓生

三年間

（平成24年度卒業生）

北海道別海高等学校創立70周年記念、誠におめでとうございます。

別海高等学校に入学したのは平成22年の春です。それから3年間の高校生活があっという間に過ぎていきました。

別海中央中学校卒業でしたので、高校1年生の春、自分のクラスに行くとそれまでの中学校からの友達のほかに、他中学校のクラスメイトもいて初めのうちはぎこちない雰囲気だったことを覚えています。

ただ、宿泊研修があったり部活に入ったりと、すぐにそのぎこちなさがなくなりクラスの雰囲気がまとまっていくのを感じ、今振り返ると同じ時間を過ごす10代の力は凄いなと感じます。

2年生になると部活動では3年生が引退し、1年生の後輩もできるため自分達が引っ張っていかなければと思い、時に空回りしてしまうこともありました。

そんな中でも、チームメイトと助け合いながら過ごした日々に関しては、今でも当時のチームメイトに会った際は、当時の話題で盛り上がり、記憶にも鮮明に残っています。

自分の進路についても考え始める時期になるため、放課後にテスト勉強をするといって、結局友達と遊んでいたのも良い思い出です。

卒業を迎える三年生。部活も勉強も残り一年となり、学校生活、将来のなりたい自分に向かって残りの学校生活を一生懸命に過ごしていました。

中学校の頃からしていたバスケットボールでは、それまでのチームメイトのほかに高校から部活に入った同級生とも、一緒にバスケットボールをするのが最後になるかもしれないと思い日々の練習に励みながらも楽しんでいました。

将来についても、当時やりたいことが決まっていて専門学校の進学も決めており高校卒業後の新たな環境を楽しみに過ごしていた半面、専門学校卒業後に就職し働く未来図が自分の中で想像がつかず、担任だった野田先生や周りの同級生にも相談し背中を押してもらったことを覚えています。

最後になりますが、自分が在学していた頃、他校から転任してきた先生方は「別海高校の生徒はみんな素直で良い子ばかり」と仰っていました。どの先生も口を揃えて言っていたため当時は特に意識することもなく過ごしていましたが、大人になった現在、町内を歩き高校生とすれ違うと、高校生側から「こんにちは」と挨拶をしてくれます。それだけで気分が明るくなるため、今も昔も「素直で良い子な別海高校生」が引き継がれることを願っています。

高校生活を振り返って

（平成25年度卒業生）

北海道別海高等学校創立70周年を迎えられ、心からお祝いを申し上げます。

私が本校に入学したのは、平成23年になります。今までとは違う新し

い環境に変わることで、期待と不安を抱えながら毎日を過ごしていたことをとても懐かしく思います。新しい友人や先輩と出会った1年生。毎日がとても新鮮で、勉学や部活動に励み、今思うととてもかけがえのない大切な時間だったのだとしみじみ思います。友人や先生にも恵まれ、学校行事などの集団活動の楽しさも学ぶことができ、協力して何かを成し遂げることの素晴らしさを実感することができました。本当に1年生の間はとにかく毎日が楽しかった思い出があります。

徐々に将来の進路を意識し始めた2年生。2年生になると、生徒それぞれが進路を意識し始め、周りの友人は将来やりたいことなどが次々と見つかっていくのに対し、自分は特別やりたいことがなく、ただひたすら部活動に取り組んでいました。部活動では、先輩と後輩ともにとても仲が良く、卒業してから数年経つ今でも連絡を取ったり、一緒に食事をしたりしています。

3年生になると、親身になってくれる担任の先生や周りの影響もあり、自身の進路をなんとなく思い描くことができました。同じようなジャンルの進路を希望する友人もいて、毎日ともに励みあいながら勉強していたことを覚えています。飽き性で継続性のない私にとって、こういった切磋琢磨できる友人がいなかったら恐らく勉強など続かなかったのではないかと今では思います。

今回こういった機会を設けていただき、改めて高校生活を振り返ってみると、私は本当に周りの人に恵まれていたことに気づかされます。たくさんの友人や担任の先生など、別海高校に入学して出会うことのできた皆さんに本当に感謝しています。

現在縁あって別海町で働くことができているので、微力ですがこれからの別海町に貢献し、恩返ししていけたらなと思います。

最後となりますが、これまで携わっていただいた方々に感謝を申し上げ、また別海高校のさらなる発展と、卒業生及び在校生の皆さんのご活躍をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

三年間を振り返り

（平成26年度卒業生）

この度は北海道別海高等学校創立70周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。私を成長させてくれた思い出のある母校が発展し続け、ご活躍なさっていることを嬉しく思います。

別海高校の生徒として勉学と部活動に励みながら過ごした3年間は、私の中でとても色濃く、充実した毎日だったと振り返ります。

その中でも、一番私を成長させてくれたのが、男子バスケットボール部で過ごした日々であり、バスケットを通して学ばせて頂いたことは、すべての礎となり、今の私を作っています。当時監督からいただいた言葉の中で今でも心に留めておいていることは「克己心」「人に感謝すること」「上下一心」です。これは競技だけではなく、どんなことに対しても共通して言えることで、当たり前のことだけれど、恒常的に心掛けることが難しく、それをコツコツと積み上げられる人が成功する人なのだということを教わりました。そして3年間バスケットに没頭することができた裏側には、先生方や歴代の先輩方の理解と協力があり、そのおかげで成り立っていたことに気付き、今でも感謝の念に堪えません。仲間達と共に学び、汗を流し、そして声を掛け合い、切磋琢磨しながら過ごした日々は、私の人生の一幕ですが、一生の思い出となる時間であり、大きな糧となっています。

別海高校は、自分の進む道をサポートしてくださる先生方、そして成

長できる環境がある素晴らしい高校です。進化を続ける母校と共に、私自身も後輩に良き背中を見せることが出来るよう、更なる高みを目指し、体育館に掲げられている校訓「日々是新」の精神のもと、日々精進していきたいと思います。

最後になりますが、今回の機会を通して、高校時代の思い出を振り返り、諸先生方を含め、私に携わってくださった方に感謝を伝えることができればと思います。私たち卒業生にとって誇りある学校として益々のご発展・進化を続けてほしいと願っています。

高校生活

（平成27年度卒業生）

北海道別海高等学校創立70周年、おめでとうございます。

２０１６年に卒業して6年の月日が経ちましたが今でも思い出せることがたくさんあります。

学年を代表するような生徒ではありませんでしたが勝手ながら3年間で経験したことや思い出を書かせていただきます。

同級生が97人と小学校、中学校で同級生が10人しかいなかった自分にとって、入学してからの毎日はとても新鮮で、不安よりもワクワクが強かったのを今でもはっきりと覚えています。そのなかでも特に、学校祭と小学生から続けてきた野球部での活動が、自分のなかでいいことや辛かったこと、悔しかったことと、いろいろな経験をさせてくれました。

まずは学校祭です。3年間すべての学校祭を楽しむことができましたが、最も印象が強く達成感があったのは2年生のときでした。クラス替えがあり、正直個人的には文句の付けどころがないくらい、いいメンバーが揃っていました。A組は個性のある人達が多く、学校祭の期間も当然、意見がぶつかることもありましたが、皆が言いたいことを正直に言ってまとまり、同じ目標に向かっていった時の勢いや強さはどこにも負けていないなと思いました。「Japanese History in 江戸」というテーマに決まり期間中は遅くまで取り組み、パフォーマンス、山車、衣装、垂れ幕、展示、それぞれで引っ張ってくれる人、そしてそれをまとめて指揮をとってくれた担任の石澤先生、クラス全員の力が合わさり別海高校の歴史で初めて?の2年生で総合優勝という最高の賞を獲ることができました。あの決まったときの瞬間や余韻は、今でも戻りたいなと思うほどの忘れられない素晴らしい時間でした。

野球部での活動は高校生活でも一番たくさんの経験を与えてくれました。苦手な走り込みをたくさんしたり大事な期間で怪我をしてしまったり、思うようにやりたいことができなかった時と辛くて悔しい思いも数えきれないほどしました。それでも、1・2年生の時に憧れの先輩方と同じグラウンドに立ち野球をできたこと、同学年が3年間欠けることなくそれぞれが成長し最後まで戦えたこと、最後の公式戦、勝つことはできませんでしたがなにより、この学校で野球をやって良かったと思えることも数えきれないほどありました。支えてくれた皆に感謝です。

あっという間の高校3年間、人にも恵まれ大人になった今でも笑いあえる友達にたくさん出会えて幸せを感じています。

最後に、緩和されてきたものの部活や行事、普通の学校生活も制限される大変な世の中が早く終わり、当たり前の幸せな日常が戻ってくるのを願っています。

高校生活の思い出

（平成28年度卒業生）

北海道別海高等学校創立70周年おめでとうございます。

私が別海高校に入学したのは平成26年の時だったと思います。現在24歳になるのでもう9年前？になります。スマホが徐々に流行り始めていて、自分も高校入学を機に買ってもらって喜んでいたのを覚えています。

中学生の時とは違い、歳が1つ2つしか変わらない上級生がとても大人に見えて、ダボダボの慣れないブレザーを着ている自分が幼く見えました。

部活動では小学校から続けていたサッカー部に入り、優しく頼もしい先輩方と共に汗を流した日々はとても貴重な時間でした。先輩方が引退した後私がキャプテンを務めたのですが、ある時は遠征にユニフォームを持参するのを忘れ、またある時はユニフォームを無くして試合に出ることができず、またある時は繰返す朝寝坊の罰として練習が終わるまで一人で走っていたりと、ひどい有様でした。朝寝坊は練習日以外にも日常でもしていたので、先生方が使用する職員通用口にはよくお世話になりました。当たり前ですが、今は朝寝坊はしていません。

高校生活の大きな行事ともいえる修学旅行では、友人とふざけすぎて宿泊先の旅館の障子を破ってしまい、正座をしながら反省文を書かされました。

先生方にはこっぴどく叱られましたが、真剣に謝っている私たちを見て我慢できずに爆笑していた女将さんがとても印象に残っています。

学年が上がるごとに自分の進路を考える機会が増えていきましたが、やりたいことが見つからず、行きたい学校や就きたい仕事が決まっているクラスメイトを見て焦っていたのを覚えています。悩んだ末に就職することを決めたのですが、卒業した後も、もし違う道を歩んでいたらと考えることがありました。しかし、あの時悩みに悩んだ時間があったからこそ今の自分があるので後悔はしていません。親身になって相談に乗ってくれた先生方に感謝しています。

高校生活を振り返ってみると、友人や先生方など周りの人に恵まれて過ごすことができたんだなとしみじみ思います。苦しい時もありましたが楽しい時のほうが圧倒的に多く、関わってきたたくさんの人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、在校生の皆さんには失敗を恐れず色んなことにチャレンジをして大きく逞しく成長していただくとともに、これからのさらなるご活躍を祈っています。

高校生活3年間の記憶

（平成29年度卒業生）

北海道別海高等学校創立70周年記念おめでとうございます。

私は高校生活3年間で辛いこと、楽しいことなど色んな経験・思い出がありました。

高校1年生は、他の中学の人たちとの新たな出会いが始まりでした。みんなと打ち解けるのもそれほど時間もかからず、入学して次の日には、他の中学の人と一緒に弁当を食べ和気藹々していたのは今でも鮮明に覚えています。学校行事では、学校祭・体育祭とともに結果としてはあまり良くなかったですが、クラスで一致団結し、楽しく終えられたこと良

かったと思っています。

2年生の時、クラス替えがあり、担任が替わったということもあり、新鮮な感じがありました。クラスが変わったこともあり始めは明るい雰囲気が漂っていました。2年生での印象的なことは、まず学校祭です。新たなクラスで挑む学校祭では、山車部門・垂れ幕部門で準優勝をしました。クラスで一致団結し、一生懸命やり、結果として表れたことが印象的でした。もう1つは、修学旅行です。班に分かれ、毎日のように話し合いを繰り返し、時には喧嘩もしながらなんとかまとまった自主研修。当日は計画通りに行くことが困難でしたが、最終的には成功し、楽しい思い出となりました。

3年生の時は、就職活動が大変でした。試験勉強等に追われ、最後の夏休みが就職活動のため、遊べなかったのは少し残念でした。結果は自分の第一希望に合格することができました。就職活動はとにかく大変でしたが、報われたことがなによりうれしかったです。やはり上手くいったのは両親や、担任の先生、友人や周りの人のおかげでした。残りの高校生活は友達との思いで作りがメインでした。休日はみんなで集まって遊び、時には部活に行き、楽しく過ごしました。そして、3月1日卒業式を迎え高校生活を終了しました。

高校3年間を振り返ると、部活に関することや、高校の日常生活に関することなど書ききれない程の思い出が蘇りました。今思えば関わってきた先生方、友人に恵まれていたからこそ高校生活がうまくいったと感じています。別海高校は良い生徒が多いと先生方は口をそろえて言っていました。今もなおそのことを引き継がれていることを願っています。

私の三年間

（平成30年度卒業生）

北海道別海高等学校創立70周年記念、誠におめでとうございます。

高校生活を振り返るといろんなことがありました。

眠たくなる午後の授業も、優勝を目指すためにクラスメイトと奮闘した学校祭も、スポーツよりも応援に力を入れた体育大会も、友達と過ごした何気ない日常さえも今の私にとってはかけがえのない思い出ばかりです。

その中でも特に、女子バレーボール部のマネージャーとして奮闘した3年間は一生忘れることのないものとなりました。

中学まではバレーボールとは無縁の生活でしたが、選手を支えるマネージャーというものに強く惹かれて入部を決めました。

同級生たちは中学の頃からの積み上げてきた経験があり、右も左もわからない私から見たらとても頼もしい人たちでした。

毎日の練習や夏と冬の合宿、練習試合や大会など3年生になるまで沢山の経験を重ねました。大会のたびに御守りを作り選手に渡していました。最初は裁縫が苦手でお世辞にも上手とは言えない出来の御守りでした。皆の喜んでくれる顔がとても嬉しかったです。

中でも一番の思い出は、高校生活で一番大きな大会の高体連。この大会の為に日々練習に励んできた私たちにとっては、どんな大会よりも思いが強い大会でした。根釧の強豪と戦っていく中でこのままでは全道に進めないのではないかと思い合宿所で涙する日もありました。

そして最終日。すべての試合が終わり、無事に全道大会への切符を手にしました。

何にも変えられないほどの喜びを感じたともに、まだこのチームでバレーボールを続けられることが本当にうれしかったです。

そして全道大会。強豪相手にアクシデントはあったものの順調に駒を進め、全道大会ベスト16という成績で私の部活動生活は終了しました。

この3年間は瞬く間に過ぎ去っていきました。一緒にコートに立つことはなかったものの、何も知らない私に全道チームのマネージャーを経験させてくれた仲間たちには感謝してもしきれません。

私は、素敵な友人や仲間に恵まれたおかげで最高の高校生活を送れました。

これから別海高校に入学する人や今、学生生活を送っている人には、この校舎で沢山の色褪せない思い出を残していってほしいと思います。

私の三年間

（令和元年度卒業生）

北海道別海高等学校創立70周年おめでとうございます。

別海高校を卒業して、約2年半ほどが経ちました。今でも高校生活の楽しかった思い出が蘇る時があり、「高校生に戻りたいなぁ」と思うことが度々あります。

一年生、入学して間もない頃は、新しいことがたくさんありました。とても新鮮でワクワクした気持ちの反面少し不安を抱いていたのを覚えています。宿泊研修で行ったネイパル厚岸では、スタンプラリーやクラス対抗での大縄跳びなどのイベントがたくさんあり、先生方や友達と過ごした思い出を作ることができ、学年全体が馴染めるきっかけになったのかなと思います。

二年生、この時期にはもう学校の生活にも慣れ始めていました。二年生といえば修学旅行。たくさんのお寺などを巡ることができ、日本の文化や歴史を自分の目でみて、学ぶことができてとてもいい経験になりました。他にも東京湾のディナークルーズを体験することができて、テーブルマナーの講習を受けつつ、豪華なフランス料理をいただきました。食後はデッキに出ることができて、東京湾から見る夜景はとてもきれいでした。

三年生、すべての行事が最後になる年。学校祭や体育大会などの行事ごとは三年生みんなが全身全霊で取り組んでいました。学校祭では、パフォーマンスや衣装などのそれぞれの担当が自分たちのできる最大の力を発揮して、最高のものを作り上げることができました。球技大会では、選手はもちろんのこと、応援も全力で悔いが残らないよう頑張っていました。そして三年生の一年間があっという間に終わり卒業式の日。ちょうど新型コロナウイルス感染症が流行り始めた時期でもありました。規模を縮小しての式で少し悔しい気持ちもありましたが、別海高校に入学して良かったと思える卒業式でした。

まだまだたくさん思い出はありますが、こうして別海高校を入学して、卒業するまでを振り返ると、先生や友達にとても恵まれていた3年間だったと思います。学年担当の先生方はとても個性豊かで、夜中までイベントの準備をしてくれていて、生徒想いの先生方でした。友達とは、一年生から三年生まで変わらないメンバーで弁当を食べていました。高校生活でできた友達は、今後も変わらない友達です。一番最初に話した、「高校生に戻りたいなぁ」と度々思うのも、この先生方や友達がいたからこそだと思います。

思い出の3年間

（令和2年度卒業生）

北海道別海高等学校創立70周年記念、誠におめでとうございます。

高校生活の3年間は、後から振り返ってみるとあっという間でしたが、中学校以前よりも、多くの人と関わることが増え、高校3年間の中にはたくさんの出来事がありました。良いこと、悪いことと様々な思い出がありますが、今となってはどれも良い思い出です。

1年生では、入学して1ヶ月も満たない内に宿泊研修の準備が始まり、全く関わったことのない人と関わりました。入学してすぐ行う宿泊研修の良さは、一気に関わる人が増え、クラス、学年に馴染みやすくなるところだと思います。1年生の宿泊研修、学校祭が終わった頃には学年の大体の人の顔と名前が一致してきて、話す人も増えたり、変わっていたりしていきました。

2年生では、クラス替えがありました。1年生の時に仲良くなった人たちと一緒になったり、離れ離れになったりと高校3年間でも変化の年でした。私は、クラス替えで1年生の時はA組7番だったのが変わらずにA組7番だったので、3年間同じ下駄箱に上靴を入れることができ、登下校の出し入れがとても楽でした。

学校祭では、1年生の時の何もわからない状態で進めた時とは違い、進め方をある程度理解した中で準備を進めることができたので、当日も1年生の時以上に楽しめました。学校祭の時に作ったクラスTシャツは卒業した今でも、部屋着や運動の時などに着ているので、高校生の時に作ったクラスTシャツは有用性があると思います。

高校生活最大の行事である、修学旅行もありました。1年生の時の宿泊研修とは違い、多くの時間を友達と共有できる時間になりました。自主研修は、普段の旅行のプラン決めに役立っていると思いました。どの行事よりも楽しく、一生の思い出です。

新型コロナウイルスが流行し、2年生の後半から学校に登校できない期間がありました。3年生は受験生というのもあり、その期間をどのように使うかすごく迷いました。少し遅れて3年生としての学校生活が始まり、久しぶりに会う同級生もいました。感染症拡大防止の為に、1年生、2年生で行えた行事ができませんでした。ですが、それによって普段の学校生活の時間が長くなったので、また違った形で周りの人と接することができました。学校祭の代わりの体育大会は、パフォーマンスと運動会も行ったので、準備は大変でしたが、楽しかったです。

今の高校生には、新型コロナウイルスへの不安が無くなって純粋に楽しめる高校生活を送って欲しいです。

編集後記

まずは、発刊が非常に遅れ、原稿を寄せて頂いた方、記念誌の発行を待たれていた方にご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。

新型コロナウイルスによる未曾有の災禍の中、70周年記念誌の発刊に向け様々な方のご協力を賜り、発刊することができました。お礼を申し上げます。

昨今はさまざまなものがディジタル化され情報を残しやすくなった反面、残っている情報が多くなり探しだすことが非常に大変な作業となりました。情報を整理し加工して残しておくことがいかに重要であるかを痛感させられることとなりました。また、記念誌をディジタル化し閲覧できるようにするなど変化してきていると感じさせられる記念誌となりました。

今年度、入学者数の減少により1学年が4間口から3間口（普通科3間口から2間口）となりました。別海高校が今後80周年、90周年、100周年と続いていくために、さまざまな方の協力が必要となります。この記念誌を目にした卒業生のみなさん。昔を思い出し、仲間と語り合いながら、さらなる別海高校へのご支援をお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

北海道別海高等学校
創立七十周年記念誌
令和5年11月20日発行
編　集　北海道別海高等学校
　　創立七十周年記念誌編集部
発行者　北海道別海高等学校
印　刷　有限会社　別　海　印　刷